

## 平成 29 年度看護学科第 3 学年科目一覧

### 【前 期】

- 公衆衛生と疫学
- 在宅看護援助論
- 治療看護技術論 I (成人・老年)
- 治療看護技術論 II (こども・女性)
- 治療看護技術論 III (精神)
- 看護研究法
- 保健行政論
- 地域看護学演習 I  
(保健指導の理論)
- 災害看護論

### 【後 期】

- 看護展開実習 I A(成人)
- 看護展開実習 I B(成人)
- 看護展開実習 II (老年)
- 看護展開実習 III(こども)
- 看護展開実習 IV(母性)
- 看護展開実習 V(精神)
- 看護展開実習 VI(在宅)
- 災害看護論演習

### 【通 年】

- コーチングの基礎

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
公衆衛生と疫学	専門基礎科目	2単位 (15時間)	必修	3年前期	講義
	病気と治療				
<b>科目担当者</b>		<b>オフィスアワー・場所</b>			
[科目責任者] 井上茂 [担当教員] 小田切優子、高宮朋子、福島教照、菊池宏幸、浜岡隆文、木目良太郎、黒澤裕子、安部由美子		木曜日 1030-1130・公衆衛生学分野研究室および健康増進スポーツ医学分野研究室、およびメール (pre-med@tokyo-med.ac.jp) による質問を受ける。			
<b>授業のねらい</b>	生まれてから死に至るまでのライフサイクルの中で、疾病を予防し、健康の保持増進を図るために必要な社会医学の知識を学ぶ。地域、学校、職域における公衆衛生活動について理解を深めるとともに、医療の場においても地域とのつながりを意識した看護展開を実践できる能力を養う。また、人間集団の疾病の特徴を観察分析する疫学についての知識と技法を習得し、健康増進のための手段や政策への方法論の基礎を学ぶ。				
<b>学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連 (□にチェックする)</b>	<p>■①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。</p> <p>□②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。</p> <p>■③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。</p> <p>■④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。</p> <p>■⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。</p> <p>□⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。</p>				
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公衆衛生の概念と基本的な内容を理解することができる。</li> <li>2. 我が国における公衆衛生活動について理解することができる。</li> <li>3. 公衆衛生における疫学の重要性とその方法について理解することができる。</li> </ol>				
<b>教科書</b>	ナーシング・グラフィカ 公衆衛生 健康支援と社会保障 メディカ出版				
<b>参考図書</b>	国民衛生の動向 厚生労働統計協会				
<b>評価方法</b>	定期試験 (90%)、受講態度 (10%) により、総合的に評価をする。				
<b>課題に対するフィードバック</b>	講義中に課した課題があれば、解説しフィードバックを行う。				
<b>事前・事後学習</b>	公衆衛生の範囲は極めて広い。教科書の内容に沿って講義を進めるが、直近の統計データなども含め補足事項については講義の中でスライド等様々な資料を使用して進めていくため、講義を疎かにし教科書だけで学習することは困難である。事前、事後と、教科書の該当部分に目を通しておくことが望ましい。				

科目コード【2111】

授業回数	項目	講義内容	担当者
1	公衆衛生と予防医学	公衆衛生を学ぶ基礎として、公衆衛生の概念を学ぶ。 また、予防医学の分類と対策について学ぶ。	井上 茂
2	人口と健康に関する指標	我が国における健康指標や人口動態統計が表す特徴を理解するとともに、公衆衛生活動における指標の活用方法について学ぶ。	安部 由美子
3	疫学Ⅰ：概念、疫学指標	疫学の概要を理解し、我が国の公衆衛生や地域保健活動における疫学の重要性を学ぶ。 また疾病頻度の指標、曝露効果の指標を学ぶ。	菊池 宏幸
4	疫学Ⅱ：疫学研究のデザイン	代表的な疫学研究のデザインについて学ぶ。	菊池 宏幸
5	疫学Ⅲ：疾病予防とスクリーニング	疾病の早期発見・早期治療を目的としたスクリーニングの概要について学ぶ。	福島 教照
6	公衆衛生システムと政策Ⅰ：日本の医療・公衆衛生システムと関連法規	医療制度、公衆衛生行政制度の特徴や、公衆衛生専門職の役割について理解し、活動について理解する。	菊池 宏幸
7	公衆衛生システムと政策Ⅱ：救急・災害・へき地医療	健康危機管理の重要性を認識し、管理体制とその役割について学ぶ。	福島 教照
8	母子保健・学校保健	「健やか親子 21」をはじめとする母子保健活動や、子どもの健康増進を目指す学校保健活動について学ぶ。	福島 教照
9	高齢者保健福祉	高齢社会の進展とともに変遷してきた高齢者保健福祉施策の概要を学ぶ。	高宮 朋子
10	成人保健（生活習慣と健康教育）	生活習慣病に関連する法律や各種制度および疫学を理解するとともに、生活習慣の改善を目指す健康教育の意義や方法について学ぶ。	浜岡 隆文
11	国民栄養（食品衛生）	国民栄養の現状と日本人の食事摂取基準について学ぶ。	黒澤 裕子
12	精神保健	精神疾患の現状や精神障害者に対する精神保健福祉施策の動向について学ぶ。	菊池 宏幸
13	感染症	主要感染症を把握し、その特徴と対策について学ぶ。	黒澤 裕子
14	産業保健（職場の健康管理）	労働者の健康問題の特徴を知るとともに、産業保健にかかわる各種法律に基づいた産業保健活動について理解する。	小田切 優子
15	環境保健	地球環境と健康との関連について学ぶ。	木目 良太郎
—	定期試験		

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
在宅看護援助論	専門科目	2単位 (30時間)	必修	3年前期	演習
	看護援助の方法				
<b>科目担当者</b>		<b>オフィスアワー・場所</b>			
[科目責任者]春日広美 [担当教員]永島美香、小室佳文、小林信、田所良之、上野里絵、藤沼小智子、中島淑恵、岩田尚子、久長正美		春日広美 hkasuga@tokyo-med.ac.jp 岩田尚子 n_iwata@tokyo-med.ac.jp II. 在宅看護援助技術の各事例の授業回が開始される際は、担当教員の連絡先を提示する。			
<b>授業のねらい</b>	<p><b>I. 在宅看護の概要 (全 11 回)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護とは何か、社会的、歴史的背景を踏まえた概念を理解する。</li> <li>2. 病院とは異なる生活の場での療養の特徴を踏まえて、その看護の特徴を理解する。</li> <li>3. 在宅看護の対象者（療養者、家族）と、家族による介護を理解する。</li> <li>4. 在宅における他職種を理解し、看護との違いを認識して連携のあり方を知る。</li> <li>5. 居宅療養を支える制度（介護保険）の運用を理解する</li> <li>6. 在宅看護を提供する上で必要とされる倫理的な態度と知識を理解する。</li> </ol> <p><b>II. 在宅看護援助技術 (全 17 回)</b></p> <p>在宅療養者の様々な療養状況の中で、健康問題の管理を支援する在宅看護の技術を、在宅療養の特徴と在宅看護の援助技術の要素を盛り込んだ事例にて、オムニバス形式のシミュレーション演習で学習する。在宅の特徴を踏まえ、「生活の場における看護」「療養者を支える家族への援助」「訪問看護の技術」「在宅他職種との連携」を軸に問題解決的に学習する。</p> <p><b>III. 在宅看護の発展と課題 (全 2 回)</b></p> <p>訪問看護の経営管理と職員教育の現状を理解する。諸外国における在宅看護の実際について、その国の文化的、社会的背景を考慮して理解する。在宅看護がかかえる課題と展望について多方面から理解する。</p>				
<b>学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連(□にチェックする)</b>	<p><input checked="" type="checkbox"/>①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>②看護の対象者を全人的に理解し、ケアとケアを融合した看護が実践できる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。</p> <p><input type="checkbox"/>⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。</p>				

<p><b>到達目標</b></p>	<p><b>I. 在宅看護の概要の学習目標</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護の歴史、医療社会的な役割を理解する。</li> <li>2. 在宅看護の対象者がその人らしい日常生活をおくる上での、健康および生活の障害の特性を理解する。</li> <li>3. 在宅看護の対象者の健康障害および障害が及ぼす生活の障害をとらえる視点を理解する。</li> <li>4. 在宅看護の提供者とその活動、活動の特徴、専門性について理解する。</li> <li>5. 在宅ケアシステムおよび在宅ケアチームを理解する。</li> </ol> <p><b>II. 在宅看護援助技術の学習目標</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「在宅」という療養の場で看護を提供する状況を理解する。</li> <li>2. 在宅療養者の健康障害、健康管理、生活状況について観察・アセスメントを実施し、療養者に必要な看護援助を考え、提供できる。</li> <li>3. 在宅療養者の家族の生活を理解し、家族の状況に応じた支援を考え提供できる。</li> <li>4. 在宅療養者とその家族を中心とした関連他職種との連携を考えることができる。</li> <li>5. 自身や他者が実施した看護援助を、療養者・家族の安全・安楽、自立、倫理の側面から評価できる。</li> </ol> <p><b>III. 在宅看護の発展と課題の学習目標</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 訪問看護ステーションの運営および経営を理解する。</li> <li>2. 諸外国の在宅療養者と在宅看護を理解する。</li> <li>3. わが国の在宅看護の課題を考察し、将来の展望を述べるができる。</li> </ol>
<p><b>教科書</b></p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護学 第5刷増補新訂版 波川京子他編 2016 (クオリティケア)</li> <li>2. デジタルナーシンググラフィカ 2016 (メディカ出版) <ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅看護論 地域療養を支えるケア</li> <li>・小児看護学 ①小児の発達と看護 ②小児看護技術</li> <li>・成人看護学 ⑦緩和ケア</li> </ul> </li> </ol>
<p><b>参考図書</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真でわかる訪問看護アドバンス 押川眞喜子監修 2016 (インターメディカ)</li> <li>・根拠がわかる在宅看護技術 第3版 正野逸子他編 2015 (メジカルフレンド社)</li> <li>・生命・生活の両面から捉える-訪問看護アセスメント・プロトコル 山内豊明監修 2015 (中央法規)</li> <li>・パーフェクト臨床実習ガイド-ライフステージに沿った看護技術と看護の展開-在宅看護実習ガイド 山田雅子編 2011 (照林社)</li> <li>・新体系 看護学全書 小児看護学②健康障害をもつ小児の看護 (メジカルフレンド社)</li> <li>・看護学テキストシリーズ NiCE 小児看護技術 子どもと家族の力をひきだす技 改訂第2版 (南江堂)</li> <li>・前田浩利 地域で支えるみんなで支える 実践 小児在宅医療ナビ (南山堂)</li> <li>・こよみの会編 はじめまして重症児 私たちの在宅生活の体験と知恵 (ぶどう社)</li> </ul>
<p><b>評価方法</b></p>	<p>居宅介護サービス計画書の作成とプレゼンテーション 10%</p> <p>演習時の提出物 30%</p>

	定期試験 60%
<b>課題に対する フィードバック</b>	授業内発表、演習時の提出物についてはその都度フィードバックする。 定期試験の模範解答は、その一部をe自主自学に掲載する。
<b>事前・事後学習</b>	1. I. 在宅看護の概要の理解は、II. 在宅看護援助技術の学習に影響するため、I. の間に適宜e自主自学小テストを実施するので、毎コマでの復習を十分にしておくこと。 2. 関連する既習科目（診断治療学I、社会福祉、家族看護論、人体の構造と機能、社会保障制度論、健康生活支援論・演習、看護基礎実習、治療看護技術論I、II、III、地域看護学概論など）の知識を確認すること。 3. 演習後は、各事例（在宅療養者）の生活の特徴、看護援助の根拠について復習しておく。

授業回数	項目	講義内容	担当者
<b>I. 在宅看護の概要（全11回）</b>			
1	在宅看護の概念、役割、社会的意義	1. 「在宅」とはどこか 2. 「在宅療養者」とは誰か 3. 「在宅看護」とは何か 4. 在宅看護が社会の中で果たす役割（在宅療養と看護の歴史を含む）	春日
2	生活の場で療養することと在宅看護アセスメント1	1. 在宅療養者の生活 2. 在宅で介護を行う家族とその生活 3. 家族による介護でおきること（虐待、介護離職／自己達成感、自己成長）	春日
3	生活の場で療養することと在宅看護アセスメント2	1. 在宅における看護師の観察とアセスメント 2. 在宅におけるケア提供の特性 3. 在宅療養にかかる費用（医療費、介護費、その他）	春日
4	在宅看護の種類と多職種連携	1. 在宅での療養生活をサポートする人々／在宅における他職種の理解 2. 訪問看護サービスとは／他職種と比較して理解する訪問看護の専門性 3. 在宅看護で求められる倫理的な態度と知識	春日
5	居宅療養を支える制度の運用	1. 居宅介護サービス計画書（ケアプラン）の立案 ○事例による個人学習およびグループワーク	春日 岩田 久長
6		1)各自、居宅介護サービス計画書を使用して限度額範囲内のサービスを組み立てる。	
7		2)上記1)の内容をグループで検討して統合する。	
8			
9		2. グループで検討して統合した計画書を発表する。	

授業回数	項目	講義内容	担当者
10	退院調整の役割と現状	1. 退院調整と医療社会背景 2. 急性・慢性期病院における退院調整と患者の状況 3. 退院調整と訪問看護との連携（退院時共同指導）	岩田 春日
11	外来看護と看看連携 在宅看護援助技術のガイド ンス	1. 外来看護の役割 2. 診療所（クリニック）における看護 3. 外来部門と訪問看護の連携	春日
<b>II. 在宅看護援助技術（全 17 回）</b>			
12	在宅看護アセスメント演習① －生活の場における健康 の状態の把握－	○講義 1) 自宅で療養する認知症高齢者の生活 2) 生活を支援する体制（地域包括支援センター、地域連携）	田所 中島 春日 岩田 久長
13		○訪問看護のシミュレーション学習 事例：認知症を患い自宅に一人で暮らす緒方八重さん	春日 岩田
14		1) 事例に関する知識の確認 2) 訪問時の観察（身体・生活）とそのアセスメント	久長 田所 中島
15		○訪問看護計画の作成 1) シミュレーション学習をふまえての訪問看護計画を作成 （グループワーク）	春日 岩田
16		2) 療養者の生活を理解することに関する小テスト	久長 田所 中島
17	在宅看護アセスメント演習② －在宅での医療管理の実 際と家族支援－	○講義又はPBL 1) 自宅で療養する医療管理が必要な子どもの生活 2) 生活を支援する体制（社会資源の活用・調整、ネットワ ークとケアシステム） 3) 在宅での医療処置を支える体制（在宅療養指導管理料、 医療材料に関する診療報酬と自宅での管理） 4) ケアを行う家族への支援	小室 永島 藤沼 春日 岩田 久長
18		○在宅における医療技術トレーニング 事例：自宅で家族による医療管理を受けるまあちゃん	小室 永島
19		1) 在宅における医療処置技術と管理(PEG、吸入・吸引)	藤沼
20		○訪問看護のシミュレーション学習 事例：まあちゃん	春日 岩田

授業回数	項目	講義内容	担当者
21		1)事例に関する知識の確認 2)訪問時の観察（身体・生活）とそのアセスメント 3)ケアを行う家族への支援	久長
22	訪問看護過程演習 ー在宅での看取りー	○講義 1)在宅で看取ること（退院～看取りまで） 2)在宅での緩和ケア 3)看取りを支える体制（緊急訪問看護体制、在宅療養支援診療所との連携） 4)家族ケア（意思決定支援、予期悲嘆、グリーフケア）	春日 岩田 久長 佐久本
23		○訪問看護計画の作成（個人） 事例：肝臓がん臨死期の久保栄子さん 1)事例の説明と知識の確認 2)個々人で訪問看護計画を立案	春日 岩田 久長 佐久本
24		○訪問看護計画の作成（グループ） グループワークで訪問看護計画を統合	
25		○訪問看護のシミュレーション学習（ABCクラス） ○全体の振り返り（訪問看護計画の評価）	春日 岩田
26			久長 佐久本
27		精神障がいを持ちながら 地域で生活する人への看護	○講義 1)精神科訪問看護とは 2)実際の訪問看護事例を用いて、精神科訪問看護の特徴を学ぶ
28	○演習 精神障がいを持ちながら地域で生活する人の事例検討 事例の説明、訪問看護計画の立案とグループ発表		非常勤
<b>Ⅲ. 在宅看護の発展と課題（全2回）</b>			
29	訪問看護ステーションの管理経営	1. 訪問看護ステーションの経営と課題 1)訪問看護ステーションの開設と運営 2)労務管理とスタッフ教育	春日
30	在宅看護の将来	1. 諸外国における在宅看護の実際 2. わが国の在宅看護の展望 3. 小レポート作成（授業内）	春日
—	定期試験		



科目コード【3309】

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
治療看護技術論 I (成人・老年)	専門科目	3 単位 (30 時間)	必修	3 年前期	演習
	看護援助の方法				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者] 平井和恵 [担当教員] 小林万里子 田所良之 河田照絵 田中瞳 中島淑恵 五十嵐涼子 西塔依久美		随時。直接訪問するか不在時はメールでアポイントをとってください。 平井和恵 (第一看護学科棟406研究室k-hirai@tokyo-med.ac.jp) 小林万里子 (第一看護学科棟413研究室koba-ma@tokyo-med.ac.jp) 田所良之 (第一看護学科棟505研究室 taddy.via.tokyomed.ac.jp@gmail.com) 河田照絵 (第二看護学科棟206研究t_kawada@tokyo-med.ac.jp ) 田中瞳 (第二看護学科棟203研究室hitomi-t@tokyo-med.ac.jp) 中島淑恵 (第二看護学科棟210研究室ynakaji@tokyo-med.ac.jp) 五十嵐涼子(第一看護学科棟415研究室igaryo@tokyo-med.ac.jp) 西塔依久美 (第一看護学科棟 415 研究室 ikumi@tokyo-med. ac. jp)			
授業のねらい		様々な健康問題を持ち、様々な健康レベルにある成人期・老年期の対象およびその家族に対し、療養生活を支えるための看護援助について学ぶ。健康問題とその治療、健康レベル、成人・老年期の特徴を踏まえた統合的な判断およびそれに基づく援助方法を学ぶ。実際の臨床場面を想定しながら思考過程を強化するため、事例を用いた看護過程の展開、シミュレーション学習の実践を通して学ぶ。			
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連(□にチェックする)		<input checked="" type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。			
到達目標		1. クリティカルな状況にある人、慢性的な健康問題をもつ人、治療(手術・化学療法・放射線療法)により身体侵襲を受ける人、緩和ケアを受ける人とその家族の特徴が説明できる。 2. 治療により身体侵襲を受ける人、生命の危機状態にある人の生命維持、回復促進に向けた看護に必要な知識が説明でき、技術を実践できる。 3. 慢性的な健康問題を持ち、長期にわたりコントロールを必要とする人の自己管理を支援する看護に必要な知識が説明でき、技術を実践できる。			

科目コード【3309】

	<p>4. 緩和ケアを必要とする人の全人的理解に基づき、苦痛を緩和し、その人らしく生きることを支援するための看護に必要な知識・技術が説明できる。</p> <p>5. 様々な機能低下をもつ高齢者が QOL を保持し、最適な健康状態を維持するための看護に必要な知識が説明でき、技術を実践できる。</p> <p>6. 対象の特徴を踏まえた看護過程の展開方法を説明できる。</p>
<b>教科書</b>	<p>デジタルナーシンググラフィカ（メディカ出版）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成人看護学①②③④⑤⑥</li> <li>・老年看護学①②</li> </ul> <p>臨床外科看護総論、臨床外科看護各論（医学書院）</p> <p>成人看護学 周手術期看護論（ヌーヴェルヒロカワ）</p> <p>成人看護学 慢性期看護論（ヌーヴェルヒロカワ）</p> <p>看護学テキストシリーズ NiCE 老年看護学概論 改訂第2版「老いを生きる」を支えることとは、正木治恵・真田弘美編，2016，南江堂.</p>
<b>参考図書</b>	適宜提示する
<b>評価方法</b>	<p>筆記試験（50%）：中間試験3回と定期試験1回の合計4回の筆記試験を行う。</p> <p>課題への取り組み（50%）：</p>
<b>課題に対するフィードバック</b>	<p>事前課題は授業での学習につながるものです。基本的にはその授業のねらいに沿って各自が振り返られるよう授業時間内に全体にフィードバックします。</p>
<b>事前・事後学習</b>	<p>提示された事前学習・事後学習は必ず行うことを前提とします。</p> <p>予習、復習には、提示する教科書、参考図書以外にも、これまでに学習した知識・技術を活用できるよう準備して授業に臨んでください。</p>

授業回数	項目	講義内容	担当者
1	オリエンテーション	<p>授業のすすめ方</p> <p>この講義で用いる看護過程について</p>	平井
2	クリティカルな状況にある人への看護	<p>クリティカルケア看護概論</p> <p>クリティカルな状況にある患者、家族の特徴</p>	小林
3	手術を受ける人への看護①②	<p>周手術期における看護の特徴</p> <p>手術および麻酔による身体侵襲</p> <p>周手術期の経過と身体変化のアセスメント</p>	小林
4			

科目コード【3309】

5	手術を受ける人への看護③④	手術前の特徴に合わせた援助①	小林
6		手術前の特徴に合わせた援助② 演習：呼吸・排痰訓練	五十嵐、他全員
7	手術を受ける人への看護⑤⑥⑦	手術中・直後の特徴に合わせた援助①	小林
8		手術中・直後の特徴に合わせた援助② シミュレーション：術直後の観察	河田、他全員
9		手術中・直後の特徴に合わせた援助③ 術後合併症のリスクに対する看護計画立案	小林
10	手術を受ける人への看護⑧⑨	術後の回復を促す援助① 術後合併症とその予防・対処	小林
11		術後の回復を促す援助② 演習：早期離床の進め方	五十嵐、他全員
12	手術を受ける人への看護⑩	術後の回復を促す援助③ 退院に向けた教育的支援	小林
13	急性的な健康問題を持つ人への看護①②③	急激な健康破綻・生命の危機状態にある人の全身状態のアセスメントと援助①②	五十嵐
14			
15		急激な健康破綻・生命の危機状態にある人の全身状態のアセスメントと援助③ 演習：BLS、AED	五十嵐、他全員
-	中間試験①		
16	慢性的な健康問題を持つ人への看護①	慢性的な健康問題を持つ人・家族の特徴 慢性的な疾患を持つ人の健康課題に対する援助の特徴	河田
17	慢性的な健康問題を持つ人への看護②③④	慢性的な健康問題/健康課題を持つ人の健康 自覚・健康管理のアセスメント	河田、他全員
18			
19			
20	慢性的な健康問題を持つ人への看護⑤⑥	慢性的な健康問題/健康課題を持つ人の身体 と生活のアセスメント	河田、他全員
21			

科目コード【3309】

22	慢性的な健康問題を持つ人への看護⑦	慢性疾患と共に生きる人の身体・心理・社会的体験	河田
23	慢性的な健康問題を持つ人への看護⑧	療養法を獲得するための援助	田中
24	慢性的な健康問題を持つ人への看護⑨⑩	療養法の必要性の理解を助ける援助	田中、他全員
25			
26	慢性的な健康問題を持つ人への看護⑪	療養に必要な技術を獲得するための援助	田中
27	慢性的な健康問題を持つ人への看護⑫⑬	療養法を生活に組み込み、継続していくことを助ける援助	田中、他全員
28			
-	中間試験②		
29	緩和ケアを受ける人・家族への看護①	緩和ケアを受ける人・家族の特徴 症状マネジメント、疼痛アセスメントと緩和	平井
30	化学療法・放射線療法を受ける人への看護①②	がん治療を受ける人・家族の特徴 治療開始前のアセスメント	平井
31		治療開始～治療中のアセスメントと援助	平井
32	化学療法・放射線療法を受ける人への看護③④	治療後のアセスメントと援助	平井、他全員
33			
34	緩和ケアを受ける人・家族への看護②③	苦痛な症状を抱える人に安楽を提供する援助	平井、他全員
35		終末期にある人の家族への援助	
-			
36	高齢者の看護の基本	高齢者に特有の健康問題 高齢者の生活を支える看護	田所
37	高齢者に特有な健康問題を持つ人への看護①②③	様々な機能障害を抱える高齢者の生活のアセスメントと援助	中島
38		*脳神経疾患 ・嚥下障害 ・運動機能障害(麻痺)	中島、他全員

科目コード【3309】

		・ 廃用症候群	
39			
40	高齢者に特有な健康問題を持つ人への看護④	認知症をもつ高齢者と看護	田所
41	高齢者に特有な健康問題を持つ人への看護⑤⑥	高齢者の全体像および自我発達の開示パターンの把握	田所、他全員
42		高齢者の看護計画の立案；看護上の着目点とその根拠・原因・帰結、看護上の着目点の間の関連性	
43	高齢者に特有な健康問題を持つ人への看護⑦⑧	高齢者の看護計画の立案；看護目標と看護援助の方針	田所、他全員
44		高齢者の看護計画の立案；看護活動の目的と具体的方法・注意点	
45	高齢者に特有な健康問題を持つ人への看護⑨	高齢者の看護計画の評価	田所、他全員
—	定期試験		

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
治療看護技術論Ⅱ (こども)	専門科目	単位 (時間)	必修	3年前期	演習
	看護援助の方法				
<b>科目担当者</b>		<b>オフィスアワー・場所</b>			
[科目責任者]永島美香 [担当教員] 小室佳文 藤沼小智子		授業終了後各担当教員研究室 小室 佳文 (405 号室) komuro@tokyo-med. ac. jp 永島 美香 (402 号室) m-naga@tokyo-med. ac. jp 藤沼小智子 (305 号室) fujinuma@tokyo-med. ac. jp			
<b>授業のねらい</b>	子どもの発達段階、健康状態とその家族のおかれている状況を総合的に捉えて適切な援助を実践するために、子どもの看護に必要な看護技術の根拠となる理論や知識について理解する。そして、シミュレーション学習を通して個々の子どもとその家族に適した援助を展開するための思考過程を強化するとともに、子ども看護の特徴的な基本的技術を習得する。				
<b>学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連(口にチェックする)</b>	<input checked="" type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
<b>到達目標</b>	1. 子どもの健全・健康な生活を支援する方法やシステムを理解できる。 2. 子どもが健康障害を持つこと、入院することが、子どもや家族にとってどのような体験であるかを理解できる。 3. 子どもの成長発達、健康障害の段階に応じた援助の特徴と方法について理解できる。 4. 子どもの成長発達、健康状態をアセスメントする技術を習得する。 5. 子どもの日常生活援助に関する基礎的知識を理解し、基本的な看護技術を習得する。 6. 医療を受ける子どもと家族の診断・治療過程に伴う看護援助に必要な知識を理解し、適切な看護援助がシミュレーション学習の中で実践できる。 7. 事例に基づき、子どもの健康段階や疾患特有の知識を理解し、その子どもの成長発達の特性、健康状態、家族のニーズを考慮した、より具体的で効果的な看護援助の方法を自ら考えることができる。				

科目コード【3310】

<b>教科書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ナーシンググラフィカ 小児看護学①小児の発達と看護、小児看護学②小児看護技術、中野綾美編、メディカ出版。</li> <li>・系統看護学講座 小児臨床看護各論、奈良間美保他著、医学書院。</li> </ul>
<b>参考図書</b>	<p>こどものフィジカルアセスメント、小野田千枝子監修、金原出版。</p> <p>チームで支える！子どものプレパレーション-子どもが「嫌」「怖い」を乗り越え、達成感を得るために 及川郁子監修、中山書店</p>
<b>評価方法</b>	<p>定期試験 50%、</p> <p>課題への取り組みと内容 50%（うち IRAT 15%、ピア評価 5%を含む）</p> <p>*遅刻は演習進行の妨げとなるため特別な事情がない限りは認めない</p>
<b>課題に対するフィードバック</b>	<p>授業時間中にフィードバックを行う。</p>
<b>事前・事後学習</b>	<p>授業は、TBL とシミュレーション学習により実施する。</p> <p>演習項目に沿って各フェーズの 1 週間前に事前課題、各フェーズ終了時に事後課題を e 自主自学に掲示するので、配布する課題に沿って必ず授業毎に実施すること。実施内容・提出方法は授業のイントロダクションで説明する。</p>

授業回数	項目	講義内容	担当者
1	「授業ガイダンス」	<p>&lt;授業の進め方&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ TBL,シミュレーション学習の意義と方法</li> <li>・ 課題事例と事前事後学習の説明</li> </ul> <p>&lt;子どもの看護援助の基本&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもと家族への看護援助の考え方</li> </ul>	永島美香
2	「子どもの看護の場における環境と管理」	<p>&lt;課題 1：小児病棟を設計してみよう&gt;</p> <p>グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもの生活と医療の場を考える</li> </ul>	藤沼小智子 永島美香 小室佳文
3		<p>&lt;課題 1 の成果発表&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各グループで設計した病棟を発表</li> <li>・ 子ども看護の場の環境と管理</li> </ul>	
4	「急性期にある子どもと家族の看護」	<p>&lt;課題 2：外来受診時から入院直後の看護&gt;</p> <p><u>TBL</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもの日常生活援助技術</li> <li>・ 子どもの観察とアセスメント</li> </ul>	藤沼小智子 永島美香 小室佳文
5		<p>&lt;課題 2：外来受診時から入院直後の看護&gt;</p> <p><u>シミュレーション学習</u></p>	
6		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもの日常生活援助技術</li> <li>・ 子どもの観察とアセスメント</li> </ul>	

科目コード【3310】

授業回数	項目	講義内容	担当者
7	「検査を受ける子どもと家族の看護」	<課題3：入院中の子どもと家族の看護 : 検査時の援助> <u>TBL</u> ・検査を受ける子どもと家族への援助技術	藤沼小智子 永島美香 小室佳文
8		<課題3：入院中の子どもと家族の看護 : 検査時の援助>	
9		<u>シミュレーション学習</u> ・検査を受ける子どもと家族への援助技術	
10	「治療・処置を受ける乳幼児期の子どもと家族の看護①」	<課題4：入院中の子どもと家族の看護 : 治療・処置時の援助> <u>TBL</u> ・治療援助技術（輸液管理・与薬）	
11		<課題4-1：入院中の子どもと家族の看護 : 与薬> <u>シミュレーション学習</u> ・治療援助技術（与薬）	
12		<課題4-2：入院中の子どもと家族の看護 : 輸液管理>	
13		<u>シミュレーション学習</u> ・治療援助技術（輸液管理）	
14	「治療・処置を受ける乳幼児期の子どもと家族の看護②」	<課題5：子どもの症状に応じた看護 : 治療・処置時の援助> <u>TBL</u> ・治療援助技術：口鼻腔吸引、酸素療法、 薬液吸入	
15		<課題5-1：子どもの症状に応じた看護 : 治療・処置時の援助> <u>シミュレーション学習</u> ・治療援助技術（酸素療法）	
16		<課題5-2：子どもの症状に応じた看護 : 治療・処置時の援助>	
17		<u>シミュレーション学習</u> ・治療援助技術（口鼻腔吸引、薬液吸入）	



科目コード【3310】

授業回数	項目	講義内容	担当者
18	「低出生体重児の看護技術」	<課題 6： NICU に入院している子どもと家族の看護> 演習 ・ NICU 看護の基本 ・ 低出生体重児の看護技術	藤沼小智子 永島美香 小室佳文
19	「子どもの治療援助技術の統合①：全体像から必要な援助を導き出す」	<課題 7-1：課題事例の全体像と必要な援助> グループワーク・討議 ・課題事例のアセスメントシートから全体像を作成、必要な看護援助を検討する。	
20	「子どもの治療援助技術の統合②：必要な援助の実践」	<課題 7-2：課題事例に対し必要な援助を実践する>	
21		シミュレーション学習 ・課題事例に対し必要と考えられる援助をモデル人形に実施し振り返りを繰り返し行う。	
22			
—	定期試験		

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
治療看護技術論Ⅱ (女性)	専門科目	単位 (時間)	必修	3年前期	演習
	看護援助の方法				
<b>科目担当者</b>		<b>オフィスアワー・場所</b>			
[科目責任者] 鈴木祐子 [担当教員] 鈴木祐子・成田みゆき・藤本薫・ 田村知子・黒岩美幸		講義担当者の研究室 (いつでも可) 鈴木 (研究室 404 syuko410@tokyo-med.ac.jp) 成田 (研究室 412 miyukin@tokyo-med.ac.jp) 藤本 (研究室 408 fujimoto@tokyo-med.ac.jp) 田村 (研究室 211 tamura@tokyo-med.ac.jp) 黒岩 (研究室 415 mkuroiwa@tokyo-med.ac.jp)			
<b>授業のねらい</b>	女性のライフステージにおける発達課題や健康課題、女性特有の健康障害(性差医療)など、女性の生涯を通じた健康と看護について理解する。マタニティサイクルにおける母子とその家族のケアとより健康な生活に向けた看護を実践するために必要な知識および看護技術を理解する。また、母子に看護援助を提供する上で必要な思考過程について、TBL、グループ学習、シミュレーション学習により理解する。				
<b>学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連(口にチェックする)</b>	<input checked="" type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
<b>到達目標</b>	1. 女性の健康を「生涯を通じた健康」ととらえることができる。 2. 女性のライフステージにおける発達課題や健康課題、女性特有の健康障害(性差医療)など、女性の生涯を通じた健康と看護について理解できる。 3. 妊娠、分娩、産褥期の女性の生理的変化及び、新生児の生理的特徴を理解する。 4. 周産期の母子とその家族の健康課題をアセスメントし、看護援助を実践するために必要な基本的知識・技術について理解する。 5. 良好な母子関係、親役割獲得などの援助方法を理解する。				
<b>教科書</b>	系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学2 医学書院 デジタルナーシンググラフィカ 母性看護学①②				

<b>参考図書</b>	病気が見える 10 産科 第 3 版 メディックメディア ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第 3 版 医歯薬出版 ウェルネスからみた母性看護過程 第 2 版 佐世正勝ほか 医学書院 根拠と事故防止からみた母性看護技術 第 2 版 石村 由利子ほか 医学書院
<b>評価方法</b>	定期試験 60% 課題や演習の取り組み・課題提出物・小テスト 40%
<b>課題に対するフィードバック</b>	提出された課題については担当教員が確認し返却します。看護過程の課題については最終提出課題のみを返却します。
<b>事前・事後学習</b>	事前学習：授業ごとに課題を提示する。取り組んで授業に臨むこと。授業内容については、事前に教科書を読み、把握してください。 事後学習：学んだことを見直し、疑問点・不明な点等はオフィスアワーを利用し理解を深めてください。

授業回数	項目	講義内容	担当者
1	女性の健康と看護 1	1) 女性の健康とヘルスプロモーション 2) リプロダクティブヘルス/ライツ 3) 女性の健康と制度・法律 4) 女性特有の問題、予防・看護 ①家族計画・望まない妊娠の防止 ②性感染症の予防と看護	鈴木
2	女性の健康と看護 2	1) 女性特有の問題、予防・看護 ①不妊症の看護 ②女性特有の疾患と QOL (子宮がん、乳がん) ③社会的ハイリスク (貧困、特定妊婦など) 2) 周産期における看護の役割 ①母子保健施策 ②死産時・新生児死亡時の看護の役割	鈴木
3	正常な妊婦のアセスメントと看護 1	1) 妊娠初期の身体的、心理・社会的変化のアセスメント 2) 胎児の発育・健康状態のアセスメント 3) 妊娠初期の看護	成田
4	正常な妊婦のアセスメントと看護 2	1) 妊娠中期・末期の身体的、心理・社会的変化のアセスメント 2) 胎児の発育・健康状態のアセスメント 3) 妊娠中期・末期の看護	成田
5	正常な褥婦のアセスメント	1) 全身状態のアセスメント 2) 退行性変化のアセスメント	藤本

科目コード【3310】

授業回数	項目	講義内容	担当者
		3) 進行性変化のアセスメント 4) 心理・社会的変化のアセスメント	
6	正常な褥婦の看護	1) 退行性変化の促進にむけた看護 2) 母乳育児にむけた看護 3) 褥婦のセルフケア能力を高める看護 4) 育児技術にかかわる看護	藤本
7	新生児のアセスメント	1) 新生児の生理 2) 新生児のアセスメント	藤本
8	褥婦における看護過程 1	1) ウェルネス型の看護診断 2) 「退行性変化について」の初期アセスメント	藤本
9	分娩の経過と胎児の健康状態のアセスメント	1) 分娩進行状態のアセスメント(分娩の3要素) 2) 胎児の健康状態のアセスメント (胎児の well-being の判断・胎児モニタリング・胎児機能不全)	田村
10	分娩期の看護 1 (演習)	1) 産婦の看護に必要な技術 ①レオポルド触診法と児心音聴取 ②分娩監視装置 (CTG) の装着と判読 ③児頭回旋機序 ④腹囲・子宮底測定/妊婦体験ジャケット	田村、成田、藤本、黒岩、鈴木
11	分娩期の看護 2 (演習)	1) シミュレーション学習：分娩進行に伴う産婦の看護 ①産痛緩和・破水・医療介入 ②分娩期における基本的欲求に対する看護 ③産婦および家族の心理と看護	田村、成田、藤本、黒岩、鈴木
12	新生児の看護	1) 出生直後の新生児の観察と援助 2) 新生児の看護 3) ハイリスク児の看護	田村
13	褥婦における看護過程 2	1) 進行性変化の初期アセスメント 2) 心理社会的変化の初期アセスメント	藤本
14	正常な経過をたどっている褥婦の看護 1 (演習)	1) 正常褥婦のフィジカルアセスメント ①シミュレーション学習：子宮復古の観察	藤本、黒岩
15	正常な経過をたどっている褥婦の看護 2 (演習)	1) 授乳の援助 シミュレーション学習：乳房の観察・乳頭マッサージ・授乳時のポジショニング・ラッチオン・エモーションナルサポート	成田、田村、鈴木

科目コード【3310】

授業回数	項目	講義内容	担当者
16	褥婦における看護過程3 (グループワーク)	1) 看護過程(初期計画立案) ①退行性変化 ②進行性変化 ③心理・社会面 ④新生児	藤本、成田、田村、黒岩、鈴木
17	正常な経過をたどっている新生児の看護1(演習)	正常新生児のアセスメント(観察)	成田、黒岩、田村、藤本、鈴木
18	正常な経過をたどっている新生児の看護2(演習)	沐浴と保清、抱っこ、着替え、おむつ交換	田村、黒岩、成田、藤本、鈴木
19	褥婦における看護過程4 (グループワーク)	1) 看護過程(実施・評価) ①退行性変化 ②進行性変化 ③心理・社会面 ④新生児	藤本、成田、田村、黒岩、鈴木
20	妊娠期のハイリスクと看護	1) ハイリスク妊娠とは 2) 妊娠(性)糖尿病 3) 妊娠高血圧症候群 4) 切迫流産と流産 5) 切迫早産と早産	成田
21	異常分娩および異常産褥の看護	1) 分娩遷延 2) 弛緩出血 3) 帝王切開術(予定/緊急) 4) 子宮復古不全 5) 乳房・乳頭トラブル	成田
22	ハイリスクの妊産褥婦のアセスメント	1) 切迫早産事例 2) 帝王切開事例	成田
23	女性まとめ	1) 生涯を通じた女性の健康 2) 世界における女性の健康問題	鈴木、黒岩
—	定期試験		

科目コード【3311】

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
治療看護技術論Ⅲ (精神)	専門科目	2単位 (30時間)	必修	3年前期	演習
	看護援助の方法				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者] 小林信 [担当教員] 上野里絵、神澤尚利		<p>オフィスアワーは開講時に提示します。                      場所は、講義担当者の研究室となります。事前にアポイントをとってください。                      小林 (506 研究室) : nkoba027@tokyo-med. ac. jp                      上野 (504 研究室) : r-ueno@tokyo-med. ac. jp</p>			
授業のねらい	<p>精神障がいをもちながら生活する人を対象として、これまで学んだ精神医学（診断治療学Ⅲ(精神科)）や精神保健（看護対象論Ⅱ(疾病の回復過程)）などの知識を基盤に、エビデンスに基づく看護援助を提供するために必要な知識・技術を学習する。特に、その人が生きる環境を整える方法、看護の対象と治療的援助関係を形成する方法、精神障がいをもちながら生活する人々とその家族を支えるケアシステムについて、講義・演習を通して学習する。</p>				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連(□にチェックする)	<p><input checked="" type="checkbox"/>①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。  <input checked="" type="checkbox"/>②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。  <input checked="" type="checkbox"/>③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。  <input checked="" type="checkbox"/>④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。  <input checked="" type="checkbox"/>⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。  <input checked="" type="checkbox"/>⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。</p>				
到達目標	<p>1. 精神の健康とは何か理解する                      2. 精神疾患・障がいの回復過程に応じた看護について理解する                      3. 精神科における治療的アプローチとしての看護、および治療的コミュニケーションについて考えることができる                      4. 精神科における医療安全と人権擁護について理解し、看護の役割を認識できる                      5. 当事者の体験を理解し、入院時だけでなく地域で生活している当事者の視点をもった看護について関心をもつことができる                      6. 精神障がいをもつ人の家族への看護について理解する                      以上をもとに、当事者のストレングスおよびリカバリーをふまえた看護について考えることができる</p>				
教科書	特に指定なし。随時、文献や資料を配布する。				

科目コード【3311】

参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル ナーシング・グラフィカ (メディカ出版) 36巻 情緒発達と看護の基本 出口禎子 (編集) 2015年 37巻 精神障害と看護の実践 出口禎子 (編集) 2015年</li> <li>こころの病を生きる 体験者からの11のメッセージ 若林菊雄 (編集) 2005年 萌文社</li> <li>こころのバリアフリー 体験者からの14のメッセージ 若林菊雄 (編集) 2008年 萌文社</li> <li>精神病院はいらない! イタリア・バザーリア改革を達成させた愛弟子3人の証言 大熊一夫 2016年 現代書館</li> <li>【DVD】カッコーの巣の上で (1975年, アメリカ) &lt;視聴を希望する場合は、担当教員に申し出てください&gt;</li> <li>【DVD】ベリーオーディナリーピープル ～とても普通の人々～ (全7巻) &lt;図書館分館所蔵&gt;</li> </ul>
評価方法	提出物 (10%)、中間テスト (20%)、定期試験 (70%) および授業態度から総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	中間試験および定期試験後の一定期間、問題と解答の閲覧ができるようにし、問題への質問に対して解説を行う。
事前・事後学習	<p>【事前学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参考図書の該当箇所を読んでおくこと。</li> <li>診断治療学Ⅲ (精神科) および看護対象論Ⅱ (疾病の回復過程) で学んだことを復習しておくこと。</li> </ul> <p>【事後学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>講義で学んだ内容は教科書や配布資料で復習し、その都度理解しておくこと。</li> <li>不明な点、理解できない部分については、オフィスアワーを利用して担当教員に確認すること。</li> </ul>

授業回数	項目	講義内容	担当者
1	精神の健康と精神看護の対象	精神の健康の基本的な考え方 精神医療および精神看護の対象の理解 バイオ・サイコ・ソーシャルモデル リカバリー (回復)、ストレンクス (強み)	小林
2	精神機能と症状のアセスメント (1)	精神機能および精神症状の種類と特徴 (1)	小林
3	精神機能と症状のアセスメント (2)	精神機能および精神症状の種類と特徴 (2)	小林
4	精神医療の歴史	精神医療の歴史的背景 わが国の精神医療に関する政策の動向と課題	小林
5	治療的援助関係	看護師・患者関係の展開 (ペプロウの対人関係論をもとに)	小林

科目コード【3311】

授業回数	項目	講義内容	担当者
6	オレム・アンダーウッドのセルフケア理論	対象の自己決定と自律を促す看護	小林
7	精神の健康の客観的指標	健康な人格とは 主な心理検査とその特徴	小林
8	神経症やストレス関連障害とその看護	不安障害、身体表現性障害、強迫性障害、 心因反応、解離性障害の特徴と治療および その看護	小林
9	物質関連障害とその看護	物質関連障害の特徴と治療およびその看護 (アルコール関連障害を中心に)	小林
10	発達障害とその看護	発達障害の特徴と治療およびその看護 (自閉症スペクトラムを中心に)	上野
11	気分障害とその看護(1)	気分障害の特徴と治療およびその看護	神澤
12	気分障害とその看護(2)	気分障害患者へのセルフケア支援 (バイオ・サイコ・ソーシャルモデルを 使ったアセスメント)	神澤
13	パーソナリティ障害とその看護	パーソナリティ障害の特徴と治療およびその 看護(境界性パーソナリティ障害を中心に)	神澤
14	摂食障害とその看護	摂食障害の特徴と治療およびその看護	神澤
15	その他の精神障がいとその看護	器質性精神障害、症状性精神障害等の特徴と 治療およびその看護	小林
16	統合失調症とその看護 (1)	統合失調症の特徴と治療およびその看護	小林
17	統合失調症とその看護 (2)	統合失調症患者へのセルフケア支援 (オレム-アンダーウッドモデルを使っ てのアセスメント)	小林
18	統合失調症とその看護 (3)	〔演習〕シミュレーション学習 統合失調症の特徴的な症状を呈する患者への セルフケア支援の実際	小林 上野 神澤
19	統合失調症とその看護 (4)		
20	統合失調症とその看護 (5)	当事者の体験 当事者主体の視点をもった看護のあり方	小林 上野 神澤
21	統合失調症とその看護 (6)		



科目コード【3311】

授業回数	項目	講義内容	担当者
22	精神科で行われる治療と看護（1）	社会復帰に向けて行われる治療（デイケア・作業療法等）・認知行動療法・社会技能訓練等の実際とその看護	上野
23	精神科で行われる治療と看護（2）	薬物療法の実際と看護の役割	小林
24	事例演習（1）	〔演習〕 グループワーク 地域生活に移行するための退院支援について	小林 上野 神澤
25	事例演習（2）		
26	地域精神保健福祉活動の実際（1）	地域生活支援事業や精神科訪問支援における看護の役割	小林 上野 神澤
27	地域精神保健福祉活動の実際（2）		
28	家族支援	精神障がいをもつ人の家族に対する看護	上野
29	精神科看護における倫理	アドボケーターとしての看護の役割	上野
30	事例演習（3）	〔演習〕 事例のアセスメントとケアプランの発表	小林 上野 神澤
-	定期試験		

科目	科目区分	単位数 (1 単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
看護研究法	専門科目	2 単位	必修	3 年前期	講義
	看護の統合	(15 時間)			
<b>科目担当者</b>		<b>オフィスアワー・場所</b>			
[科目責任者] 小林万里子 [担当教員] 小林万里子		<p>事前にアポイントをとってください。メールで質問・意見はいつでも受け付けます。</p> <p>小林万里子（第一看護学科棟413研究室koba-ma@tokyo-med.ac.jp）</p>			
<b>授業のねらい</b>	この科目では、看護学における研究過程を学習し、研究の基礎的な知識を習得する。また、看護における研究の意義や役割を認識し、看護理論や看護実践との関係について考え、看護専門職に必要な研究的思考に基づき、課題を解決する過程を体験する。				
<b>学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連 (□にチェックする)</b>	<input checked="" type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
<b>到達目標</b>	1. 看護研究に用いられる基礎的な用語が理解できる。 2. 研究課題の明確化、文献検索、研究方法の選定、データ収集・分析、結果・考察という一連の研究過程が理解できる。 3. 研究の倫理的問題とその対応について述べるができる。 4. 看護における研究の意義や役割を理論や実践との関係性から述べるができる。 5. 研究論文を読解する基礎的知識を基に関心のある課題に対する文献を精読し整理できる。 6. 関心のある課題について研究計画書を作成できる。				
<b>教科書</b>	・数間恵子、岡谷恵子、河正子著：看護研究のすすめ方、よみ方、つかい方（第2版）、日本看護協会出版会、1997年				
<b>参考図書</b>	・南裕子編集：看護における研究、日本看護協会出版会、2008年・大木秀一著：基本からわかる看護統計学入門、医歯薬出版株式会社、2008年 ・黒田裕子著：看護研究 Step by Step、医学書院、2012年				

科目コード【3601】

<b>評価方法</b>	1. 小テスト 10%+筆記テスト 50%、2. 課題提出物 40% 1と2それぞれに 60 点以上を単位認定とする。
<b>課題に対する フィードバック</b>	基本的にはその授業のねらいに沿って各自が振り返られるよう授業時間内に全体にフィードバックする。提出物にはコメントを入れて返却する。
<b>事前・事後学習</b>	・必要な学習課題は授業終了前や e 自主自学掲示板で提示するので確認の上、予習をして授業に臨むこと。 ・3 年生実習科目や 4 年生統合実習などにつなげられるよう教科書・授業資料を整理し振り返っておくこと。

授業回数	項目	講義内容	担当者
1	授業科目のオリエンテーション 看護における研究	・看護研究とは何か ・研究と看護実践の関係、研究が看護実践に果たす役割 ・研究過程の概観	小林
2 3	研究課題からみた研究タイプと 研究デザイン 1	・研究課題の見つけ方、絞り方 ・研究課題からみた研究のタイプ (因子探索研究、関係探索研究、関連検証研究、因果仮説検証研究)	小林
	研究課題からみた研究タイプと 研究デザイン 2	・量的研究と質的研究	小林
4 5	研究論文の活用 1	・研究論文の構成要素 ・文献検討の意義 ・研究論文の読み方、整理の方法	小林
	研究論文の活用 2	・課題の解決に向けた研究論文の活用方法 ・概念枠組みと仮説	小林
6	データの収集・分析 1	・課題の解決に用いる評価指標 ・データの種類 ・データ収集の技法と注意点 ①質問：質問紙法、面接法 ②観察：参加観察、非参加観察 ・質問を作成してみる	小林
7	データ収集・分析 2	・データの分析とは何か ・データの集計方法 ・変数の種類（名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比尺度） ・変数の種類による分析方法の違いと示し方 ・データの信頼性と妥当性	小林

科目コード【3601】

		・作成した質問の回答を分析してみる	
8	研究と倫理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究における倫理的問題</li> <li>・看護研究における倫理的配慮</li> <li>・研究の倫理指針</li> <li>・研究倫理審査</li> </ul>	小林
9 10	研究計画書の作成経過	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疑問から研究計画書を作成するまでの経過</li> <li>・研究計画書作成の意義と注意点</li> <li>・研究タイプ・デザインによる研究計画の特徴</li> </ul>	小林
	研究論文の抄読 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究タイプ・デザインによる研究の特徴</li> <li>①因子探索研究</li> <li>②関係探索研究</li> </ul>	小林
11 12	研究論文の抄読 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究論文の実例</li> <li>③関連検証研究</li> <li>④因果仮説検証研究</li> </ul>	小林
	研究論文の抄読 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究タイプ・デザインによる研究の特徴</li> <li>・質的研究の種類と特徴</li> <li>・質的研究の抄読</li> </ul>	小林
13	研究結果のまとめ方・発表のしかた	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結果と考察の違い</li> <li>・研究発表の形式と発表時の注意点</li> <li>・研究論文の書き方</li> </ul>	小林
14 15	研究計画書作成の実際 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疑問から看護の研究になり得る研究課題を考える</li> <li>・研究課題に関連する文献を3つ以上集めてまとめる</li> <li>・必要な内容を網羅し研究計画書の作成を経験する</li> </ul>	小林
	研究計画書作成の実際 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究計画書の内容を他者がわかるように説明する</li> </ul>	小林
—	定期試験		

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
保健行政論	専門科目	2単位 (15時間)	自由	3年前期	講義
	コミュニティ ヘルスケア				
<b>科目担当者</b>		<b>オフィスアワー・場所</b>			
[科目責任者] 森山幹夫 [担当教員] 森山幹夫		原則 火曜・水曜日 9:00～10:00 場所 森山研究室503 moriyamamikio@yahoo.co.jp			
<b>授業のねらい</b>	<p>基本的な行政の成り立ち、仕組みについて理解し、特に保健医療福祉行政の目的及び理念について学修する。現代社会における保健医療福祉行政が担う役割、行政が行う保健医療福祉の活動と民間等との役割分担などについて、人々の安心安全な生活を実現する保健医療福祉の理念や基本的理論を通じて教授する。さらに、保健分野の具体的施策を学び、国、都道府県及び市町村などの役割を理解するとともに、保健医療福祉サービスを評価し、調整する基本的知識と能力を養う。加えて、地方公共団体等が実施する行政施策の計画・策定・実行・評価の各段階の基本的知識及び技能を学ぶことにより保健医療福祉各分野における保健師・看護師の役割と地域住民活動に対する基礎的知識と能力を養う。</p>				
<b>学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連 (□にチェックする)</b>	<p><input checked="" type="checkbox"/>①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。</p>				
<b>到達目標</b>	<p>1. 国や都道府県、市町村の各種行政の仕組みの理解、保健行政と周辺分野の制度を理解し、社会資源の把握能力を獲得し、地域住民へそれらを説明するための基本を知ることができる。</p> <p>2. 保健師または看護師として保健行政を理解し、各種社会的資源や制度を活用し、住民の保健水準の向上のために各施策と連携をとって活動することができる。</p>				
<b>教科書</b>	ナーシンググラフィカ 健康と社会・生活 2016年 メディカ出版				

科目コード【3704】

<b>参考図書</b>	系統看護学講座 看護関係法令 2017年 医学書院
<b>評価方法</b>	1. 毎回の出席・ミニレポート 50% 2. 定期試験 50%
<b>課題に対する フィードバック</b>	1. 毎回のミニレポート等はチェックして次回に返却する。 2. 試験問題は持ち帰り、模範解答は公開するので自己再確認すること。
<b>事前・事後学習</b>	事前学習：教科書の該当箇所は必ず読んでから受講すること。 事後学習：講義で学んだ内容をノートに整理し、自分の考えをまとめること。ミニレポートは毎授業終了後に提出することを課す。 事後学習には 30 分以上の時間を充てること。

授業回数	項目	講義内容	担当者
1	保健行政論の全体像	保健行政の全体について概要を把握 他の社会保障行政との関係について理解	森山幹夫
2	行政の意味と保健上の位置づけ	行政とは何か行政機関・職員とは何かの理解	森山幹夫
3	保健行政での国と都道府県連携	国と都道府県の役割分担と連携について理解	森山幹夫
4	保健行政における市町村の役割	住民に身近な行政の役割内容と重要性 第1線の行政機関の重要性の把握	森山幹夫
5	保健行政における財政の役割	保健システムを動かす各種財源の重要性理解	森山幹夫
6	保健行政における各種計画Ⅰ	医療計画を始め保健分野の計画の内容を理解	森山幹夫
7	保健行政における各種計画Ⅱ	福祉や介護などの各種計画における保健活動	森山幹夫
8	保健行政における各種計画Ⅲ	計画の策定、実施、評価経過と看護職の役割	森山幹夫
9	保健行政担当の各種機関の役割	保健の周辺にある各種機関の役割と連携	森山幹夫
10	保健行政での各種資格の役割	保健行政における各種資格の役割と連携	森山幹夫
11	人材確保行政の概要	保健医療福祉における人材確保行政の重要性	森山幹夫
12	保健行政での住民の位置づけ	主権者及び利用者としての住民概念の理解	森山幹夫
13	保健行政における住民の主体性	住民のエンパワメントの行政上の重要性	森山幹夫
14	行政における民間団体の役割	行政における民間団体の役割	森山幹夫
15	保健行政のまとめ	保健行政論の講義のまとめと理解の深化	森山幹夫
—	定期試験		

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
地域看護学演習 I (保健指導の理論)	専門科目	1 単位 (30 時間)	自由	3 年前期	演習
	コミュニティ ヘルスケア				
<b>科目担当者</b>		<b>オフィスアワー・場所</b>			
[科目責任者] 鈴木 良美 [担当教員] 鈴木 良美、吉岡 京子		講義終了後・研究室			
<b>授業のねらい</b>	<p>地域で生活するすべての人を対象とし、健康を保持・増進し、健康障害を予防し、健康増進に寄与する公衆衛生看護活動の基礎を理解する。</p> <p>シミュレーション教育を通して、ライフステージや疾病を考慮した保健指導について理論と方法を学習する。</p>				
<b>学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連 (□にチェックする)</b>	<p><input checked="" type="checkbox"/>①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。</p> <p><input type="checkbox"/>⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。</p>				
<b>到達目標</b>	<p>1. 主に個人とその家族に対する健康問題のアセスメントについて習得し、模擬的に展開することができる。</p> <p>2. ライフステージや疾病を考慮した家庭訪問・病院訪問・健康診断時等における支援方法について習得し、模擬的に展開することができる。</p> <p>3. ライフステージや疾病を考慮した保健指導を自ら模擬的に展開すること、他学生の保健指導場面を見学することにより、保健指導についての関心・学びを深め、真摯な態度で振り返りができる。</p>				
<b>教科書</b>	<p>標準保健師講座 1 地域看護学概論 第3版、医学書院 (購入済み)</p> <p>標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動 第3版、医学書院 (購入済み)</p>				
<b>参考図書</b>	<p>コーチングで保健指導が変わる！、柳澤厚生編、医学書院、2008</p>				
<b>評価方法</b>	<p>定期試験 (50%)・演習内容・演習レポート等 (50%) の総合評価</p> <p>20 分以上の遅刻は欠席と見なす。</p> <p>再試験は実施しません。</p>				

<b>課題に対する フィードバック</b>	演習における発表の内容を、その場でフィードバックする。
<b>事前・事後学習</b>	<p>事前に地域看護学概論、産業保健論、健康教育論で学んだ内容をよく理解しておくこと。</p> <p>事後に重要事項をまとめてレポートすること。</p> <p>事前学習 2 時間 ・ 事後学習 1 時間</p>

授業 回数	項 目	講義内容	担当者
1	オリエンテーション 家庭訪問について	オリエンテーション 地域における家庭訪問の方法について学ぶ	鈴木良美
2	家庭訪問を通じた支援	家庭訪問を通して、地域で生活する家族への支援方法について学ぶ。	鈴木良美 吉岡京子
3	家庭訪問を通じた支援	家庭訪問を通して、地域で生活する家族への支援方法について学ぶ。	鈴木良美 吉岡京子
4	家庭訪問を通じた支援	家庭訪問を通して、地域で生活する家族への支援方法について学ぶ。	鈴木良美 吉岡京子
5	家庭訪問を通じた支援	家庭訪問を通して、地域で生活する家族への支援方法について学ぶ。	鈴木良美 吉岡京子
6	健康相談を通じた支援	健康相談を通じた支援方法について学ぶ。	鈴木良美
7	健康相談を通じた支援	健康相談を通じた支援方法について学ぶ。	鈴木良美 吉岡京子
8	健康相談を通じた支援	健康相談を通じた支援方法について学ぶ。	鈴木良美 吉岡京子
9	健康相談を通じた支援	健康相談を通じた支援方法について学ぶ。	鈴木良美 吉岡京子
10	健康相談を通じた支援	健康相談を通じた支援方法について学ぶ。	鈴木良美 吉岡京子
11	地域における感染症発生時の対応方法について	地域における感染症発生時の対応方法について学ぶ。	吉岡京子
12	感染症患者とその家族への支援	地域における感染症発生時の対応方法について学ぶ。	鈴木良美 吉岡京子
13	感染症患者とその家族への支援	地域における感染症発生時の対応方法について学ぶ。	鈴木良美 吉岡京子
14	健診結果の事後相談における成人への保健指導	健診事後相談場面を通して、成人に対する保健指導方法について学ぶ。	鈴木良美 吉岡京子



科目コード【3706】

15	まとめ	地域看護学演習 I での学びを総括する。	鈴木良美 吉岡京子
—	定期試験		

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
災害看護論	専門科目	2単位 (15時間)	必修	3年前期	講義
	グローバルヘルス				
<b>科目担当者</b>		<b>オフィスアワー・場所</b>			
[科目責任者] 山崎 達枝 [担当教員] 山崎 達枝		時間：授業終了後から 30 分間 場所：非常勤講師控室			
<b>授業のねらい</b>	自然災害や人的・特殊災害等、地域あるいは国内だけでは対応が困難となる予測不能な災害が、人々の健康生活に影響を及ぼす影響を理解し、被災者、被災地域への支援を実践するための災害に関する基本的な知識を学ぶ。そして、災害支援活動における看護の役割を理解し、国内外で発生する災害により生命や健康生活への被害を少なくするための予防から災害後の看護活動について学ぶ。				
<b>学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連 (□にチェックする)</b>	<input type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
<b>到達目標</b>	1. 災害発生後の看護師の役割が理解できる。 2. 災害の種類と特徴的疾患が理解できる。 3. 多職種との連携の必要性が理解できる。				
<b>教科書</b>	災害現場でのトリアージと応急処置 山崎 達枝 2009年 日本看護協会出版会				
<b>参考図書</b>	ナーシンググラフィカ 災害看護 2014年 メディカ出版				
<b>評価方法</b>	定期試験：80% 授業態度：20%				
<b>課題に対するフィードバック</b>					
<b>事前・事後学習</b>	事前学習：教科書・参考図書はしっかりと読んでから受講すること。 事後学習：講義で伝えた内容はもう一度復習すること。				

科目コード【3501】

授業回数	項目	講義内容	担当者
1	災害・災害看護の概要 1	近年の国内外の災害発生の現状と今日的課題 災害医療とは、災害の定義 災害の分類	山崎 達枝
2	災害・災害看護の概要 2	災害の種類と特徴的な疾患 災害医療と救急医療の相違点 病院での備えと役割	山崎 達枝
3	災害・災害看護の概要 3 災害発生時の社会の対応や仕組み	災害サイクルと災害医療の特徴 災害と法律	山崎 達枝
4	災害・災害看護の概要 3 災害発生時の社会の対応や仕組み	災害看護とは 災害看護の定義と特殊性 災害看護の対象者 災害時要援護者	山崎 達枝
5	災害サイクル別看護 1 急性期	災害サイクルと看護活動現場の違い 急性期の看護職の役割	山崎 達枝
6	災害サイクル別看護 2 急性期	トリアージ トリアージタグの書き方	山崎 達枝
7	災害サイクル別看護 3	避難所 被災者に対する安全な環境 福祉避難所	山崎 達枝
8	災害サイクル別看護 4 亜急性期～慢性期	在宅被災者の健康問題 仮設住宅による健康問題	山崎 達枝
9	災害サイクル別看護 5 復旧・復興期～静穏期	復興期の健康問題 災害への備え	山崎 達枝
10	地域における多職種との連携	協働のあり方とは 職種横断的連携	山崎 達枝
11	精神衛生 1	被災者のこころのケア	山崎 達枝
12	精神衛生 2	救援者のこころのケア	山崎 達枝
13	精神衛生 3	遺族のこころのケア DMORT 活動紹介	山崎 達枝
14	地域外からの救援活動 1	災害支援ナースの活動紹介 国内災害における災害看護活動 GO・NGO(NPO)	山崎 達枝
15	地域外からの救援活動 2	自然災害における国際援助活動の実際	山崎 達枝
—	定期試験		

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
看護展開実習ⅠA (成人)	専門科目	2単位	必修	3年後期	実習
	看護援助の方法	(90時間)			
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者] 小林万里子 [担当教員] 河田照絵 田中瞳 五十嵐涼子 西塔依久美 平井和恵		随時 小林万里子(第一看護学科棟 413 研究室 koba-ma@tokyo-med. ac. jp) 河田照絵(第二看護学科棟 206 研究室 t_kawada@tokyo-med. ac. jp ) 田中瞳(第二看護学科棟 203 研究室 hitomi-t@tokyo-med. ac. jp) 五十嵐涼子(第一看護学科棟 415 研究室 igaryo@tokyo-med. ac. jp) 平井和恵(第一看護学科棟 406 研究室 k-hirai@tokyo-med. ac. jp) 西塔依久美(第一看護学科棟 415 研究室 ikumi@tokyo-med. ac. jp)			
授業のねらい		周手術期(術前、術中、術後)にある成人期の人(・家族)に対して、個別性を尊重した根拠に基づく看護を実践できる能力を養うことを目的とする。具体的には、入院中の周手術期にある人を受け持ち、援助的関係を形成するとともに、手術を受けることが、その人の身体的・心理的・社会的側面に及ぼす影響について学ぶ。さらに、その人にとって最適な健康状態をめざした根拠に基づいた援助を実践し、行った看護について考察する。			
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連(□にチェックする)		<ul style="list-style-type: none"> <li>■①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。</li> <li>■②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。</li> <li>■③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。</li> <li>■④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。</li> <li>■⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。</li> <li>□⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。</li> </ul>			
到達目標		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 手術を受ける人(・家族)を身体的、心理的、社会的側面から理解し、その特性について説明できる。</li> <li>2. 術前の心身の準備をととのえる援助について説明できる。</li> <li>3. 心身の回復を促進するための援助を行うことができる。</li> <li>4. 対象者の退院後の生活を踏まえて、退院に向けた援助について説明できる。</li> <li>5. 保健医療チームにおける看護師の役割を理解し、看護者としての基本的な態度を身につけることができる。</li> </ol>			

<p><b>教科書</b></p>	<p>デジタルナーシンググラフィカ（メディカ出版）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成人看護学①②③④⑤⑥</li> <li>・老年看護学①②</li> <li>・健康の回復と看護①②③④⑤⑥⑦</li> <li>・疾病の成り立ち①②③④</li> <li>・人体の構造と機能①②</li> <li>・健康支援と社会保障①②③④</li> </ul> <p>臨床外科看護総論（医学書院）</p> <p>他、これまでの学習で使用したテキスト、資料すべて</p>
<p><b>参考図書</b></p>	<p>病気がみえるシリーズ vol.1-9 （メディックメディア）</p> <p>他、必要に応じて紹介する。</p>
<p><b>評価方法</b></p>	<p>実習目標の達成度、実習に取り組む姿勢・態度、記録・レポート等により総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2/3以上出席したものを評価の対象とする。</li> <li>・実習目標と評価の視点に則る評価表を用いて、実習への取り組みの姿勢・態度、実習記録の内容、カンファレンスへの参加度、面接などから到達目標の達成状況を総合的に評価する。</li> <li>・評価はS、A、B、C、Dの5段階で行い、S、A、B、Cを合格とする。</li> </ul> <p>※原則として補習実習は行わない。</p>
<p><b>課題に対する フィードバック</b></p>	<p>実習期間中の日々の課題に対しては随時フィードバックを行います。</p> <p>実習最終日の学内面接時に、実習目標への到達についてフィードバックを行います。</p>
<p><b>事前・事後学習</b></p>	<p>実習オリエンテーション時に提示する</p>

**実習内容と方法**

\*詳細については看護展開実習 I（成人）実習要項を配布し、実習オリエンテーション時に説明を行う。

実習期間) 平成 29 年 9 月 25 日～平成 30 年 2 月 2 日までの期間で配属された 2 週間

実習施設) 東京医科大学病院

実習場所) 病棟実習を基本とする

\*受け持ち対象者が術後 ICU 等に転床する場合は、学生も実習場所を移動する。その他、受け持ち対象者の状況に応じて外来・透析室・リハビリ室・各種検査室・栄養相談室等に同伴することがある。

実習時間) 8:30～16:00 (初日のみ 8:00～)

実習方法) 1) 周手術期にある対象者 1 名以上を受け持ち、看護過程を展開する。

2) 日々の学習課題 (看護目標・学習目標) について予め行動計画を作成し、教員・指導者の助言のもと実習をすすめる。

3) 必要な看護技術の習得に努める。

4) カンファレンスを通して学ぶ。

実習スケジュール)

1 週目	内容	2 週目	内容
月	オリエンテーション、受け持ち開始	月	病棟実習
火	病棟実習	火	病棟実習
水	学内日	水	病棟実習
木	病棟実習	木	病棟実習・病棟最終カンファレンス
金	病棟実習	金	学内日

\*患者の状態によっては必ずしもスケジュール通りではない

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
看護展開実習 I B (成人)	専門科目	2 単位	必修	3 年後期	実習
	看護援助の方法	(90 時間)			
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者] 平井和恵 [担当教員] 河田照絵 田中瞳 五十嵐涼子 小林万里子 西塔依久美		随時。 平井和恵 (第一看護学科棟 406 研究室 k-hirai@tokyo-med.ac.jp) 河田照絵 (第二看護学科棟 206 研究室 t_kawada@tokyo-med.ac.jp) 田中瞳 (第二看護学科棟 203 研究室 hitomi-t@tokyo-med.ac.jp) 五十嵐涼子 (第一看護学科棟 415 研究室 igaryo@tokyo-med.ac.jp) 小林万里子 (第一看護学科棟 413 研究室 koba-ma@tokyo-med.ac.jp) 西塔依久美 (第一看護学科棟 415 研究室 ikumi@tokyo-med.ac.jp)			
授業のねらい		様々な健康問題をもつ成人期の人（・家族）に対して、個性を尊重した根拠に基づく看護を実践できる能力を養うことを目的とする。具体的には、慢性的な健康問題を持つ人/リハビリテーションの必要な人/緩和ケアの必要な人を受け持ち、援助的関係を形成するとともに、健康問題や健康レベルが、その人の身体的・心理的・社会的側面に及ぼす影響について学ぶ。さらに、その人にとって最適な健康状態をめざした根拠に基づいた援助を実践し、行った看護について考察する。			
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連(□にチェックする)		<ul style="list-style-type: none"> <li>■①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。</li> <li>■②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。</li> <li>■③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。</li> <li>■④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。</li> <li>■⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。</li> <li>□⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。</li> </ul>			
到達目標		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 慢性的な健康問題や障害を持ちながら生活する人とその家族を身体的、心理的、社会的側面から理解し、その特性について説明できる。</li> <li>2. 対象の置かれた状況、セルフケア能力をアセスメントしながら、生活と療養の折り合いをつけることを支援できる。</li> <li>3. 症状、機能障害、ADL のレベルに合わせた日常生活の援助を行うことができる。</li> <li>4. 長期的な視点を持って、退院支援について説明できる。</li> <li>5. 保健医療チームにおける看護師の役割を理解し、看護者としての基本的な態度を身につけることができる。</li> </ol>			

<p><b>教科書</b></p>	<p>デジタルナーシンググラフィカ（メディカ出版）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成人看護学①②③④⑤⑥</li> <li>・老年看護学①②</li> <li>・健康の回復と看護①②③④⑤⑥⑦</li> <li>・疾病の成り立ち①②③④</li> <li>・人体の構造と機能①②</li> <li>・健康支援と社会保障①②③④</li> </ul> <p>臨床外科看護総論（医学書院）</p> <p>他、これまでの学習で使用したテキスト、資料すべて</p>
<p><b>参考図書</b></p>	<p>病気がみえるシリーズ vol. 1-9 （メディックメディア）</p> <p>他、必要に応じて紹介する。</p>
<p><b>評価方法</b></p>	<p>実習目標の達成度、実習に取り組む姿勢・態度、記録・レポート等により総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2/3以上出席したものを評価の対象とする。</li> <li>・実習目標と評価の視点に則る評価表を用いて、実習への取り組みの姿勢・態度、実習記録の内容、カンファレンスへの参加度、面接などから到達目標の達成状況を総合的に評価する。</li> <li>・評価はS、A、B、C、Dの5段階で行い、S、A、B、Cを合格とする。</li> </ul> <p>※原則として補習実習は行わない。</p>
<p><b>課題に対する フィードバック</b></p>	<p>実習期間中の日々の課題に対しては随時フィードバックを行います。</p> <p>実習最終日の学内面接時に、実習目標への到達についてフィードバックを行います。</p>
<p><b>事前・事後学習</b></p>	<p>実習オリエンテーション時に提示する</p>



**実習内容と方法**

\*詳細については看護展開実習Ⅰ（成人）実習要項を配布し、実習オリエンテーション時に説明を行う。

実習期間) 平成 29 年 9 月 25 日～平成 30 年 2 月 2 日までの期間で配属された 2 週間

実習施設) 東京医科大学病院

実習場所) 病棟実習を基本とする

\*その他、受け持ち対象者の状況に応じて外来・透析室・リハビリ室・各種検査室・栄養相談室等に同伴することがある。

実習時間) 8:30～16:00（初日のみ 8:00～）

- 実習方法) 1) 慢性的な健康問題を持つ人/リハビリテーションの必要な人/緩和ケアの必要な人 1 名以上を受け持ち、看護過程を展開する。
- 2) 日々の学習課題（看護目標・学習目標）について予め行動計画を作成し、教員・指導者の助言のもと実習をすすめる。
- 3) 必要な看護技術の習得に努める。
- 4) カンファレンスを通して学ぶ。

実習スケジュール)

1 週目	内容	2 週目	内容
月	オリエンテーション、受け持ち開始	月	病棟実習
火	病棟実習	火	病棟実習
水	学内日	水	病棟実習
木	病棟実習	木	病棟実習・病棟最終カンファレンス
金	病棟実習	金	学内日

\*患者の状態によっては必ずしもスケジュール通りではない

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
看護展開実習Ⅱ (老年)	専門科目	2単位 (45時間)	必修	3年後期	実習
	看護援助の方法				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者] 田所 良之 [担当教員] 田所 良之, 中島 淑恵, 非常勤教員		科目責任者連絡先 taddy.via.tokyomed.ac.jp@gmail.com (田所) その他、実習オリエンテーションにて提示する			
授業のねらい	<p>看護展開実習Ⅱ（老年）では、以下を目的とした実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>健康上ならびに生活上の支援を要する高齢者への看護実践を通して、老年期にある人々への看護のあり方を理解する。</li> <li>高齢者の特徴をふまえた看護を計画・実施・評価する基礎的能力を養い、適切なアセスメントと看護の方法を修得することができる。</li> <li>高齢者とその家族への支援における保健・医療・福祉の多職種連携、ならびに、看護の役割・機能と専門性について理解を深める。</li> </ol>				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連(口にチェックする)	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/>①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。</li> </ul>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>高齢者の全体像を5つの側面（からだ、こころ、かかわり、暮らし、生きがい）から統合して理解できる。</li> <li>高齢者の健康で心豊かな生活を支援する看護実践を通して、適切な援助について理解できる。</li> <li>高齢者を支援する多職種の役割と連携、ならびに、多職種連携における看護の役割・機能と専門性について理解できる。</li> <li>生活の場の変化に応じた高齢者とその家族へのケアや社会資源の活用、継続看護の必要性を理解できる。</li> </ol>				
教科書	<p>DNG（デジタルナースンググラフィカ）に加えて、以下の書籍を使用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学テキストシリーズ NiCE 老年看護学概論 改訂第2版「老いを生きる」を支えることとは、正木治恵・真田弘美編，2016，南江堂.</li> <li>・パーフェクト臨床実習ガイド 老年看護 第2版，正木治恵編，2017，照林社.</li> </ul>				

<p style="text-align: center;"><b>参考図書</b></p>	<p>●その他参考となる図書を以下に例示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学テキストシリーズ NiCE 老年看護学技術 改訂第2版 最後までその人らしく生きることを支援する, 真田弘美・正木治恵編, 2016, 南江堂.</li> <li>・生活機能からみた老年看護過程 第3版: +病態・生活機能関連図, 山田律子編, 2016, 医学書院.</li> <li>・根拠と事故防止からみた老年看護技術 第2版, 亀井智子, 2016, 医学書院.</li> </ul> <p>●2016年度の看護展開実習Ⅱ(老年)期間中に活用した参考資料を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エンド・オブ・ライフを見据えた“高齢者看護のキホン”100—看護管理者と創る超高齢社会に求められる看護とは, 岡本充子編, 2015, 日本看護協会出版会.</li> <li>・高齢者のエンドオブライフ・ケア実践ガイドブック第1巻 死を見据えた日常生活のケア, 桑田美代子・湯浅美千代編, 2016, 中央法規出版.</li> <li>・高齢者のエンドオブライフ・ケア実践ガイドブック第2巻 死を見据えたケア管理技術, 桑田美代子・湯浅美千代編, 2016, 中央法規出版.</li> <li>・認知症ケアガイドブック, 日本看護協会編, 2016, 照林社.</li> <li>・地域医療の暮らしのゆくえ: 超高齢社会をともに生きる, 高山義浩, 2016, 医学書院.</li> <li>・日本で老いて死ぬということ—2025年、老人「医療・介護」崩壊で何が起るか, 朝日新聞迫る 2025年ショック取材班, 2016, 朝日新聞出版.</li> <li>・みんなで学ぶ眼科の手術 スタッフだって知っておかなきゃ! これ1冊で解剖・術式・ケアが分かる, 眼科ケア 2012年冬季増刊, 眼科ケア編集委員会編, 2016, メディカ出版.</li> </ul> <p>●その他、実習における学修をすすめる上での参考書籍を、実習中に適宜提示・配布予定。</p>
<p style="text-align: center;"><b>評価方法</b></p>	<p>実習の目的・到達目標に基づき、以下の視点で総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①実習状況(出席/欠席日数、遅刻・早退、実習態度、実習記録の内容、カンファレンスでの発言、実習への努力・積極性、学内GWの内容と参加状況など)</li> <li>②教員との相互評価面接による評価</li> <li>③ケーススタディ(実習レポート)</li> </ul> <p>評点配分は、①②合わせて80点、③20点。合計100点満点。ただし、③ケーススタディが提出されない場合は、評価の総合評価の対象とならない。</p>
<p style="text-align: center;"><b>課題に対する フィードバック</b></p>	<p>実習期間中の個別面接、ケースカンファレンス、実習最終日の相互評価面接において実習状況や内容について適宜フィードバックを行う。また、ケーススタディについては評価後に個別に返却する。</p>

<p><b>事前・事後学習</b></p>	<p>【事前学習】実習では、看護学的知識と技術、医学的知識、医療保健福祉制度の知識に加え、学際的な知識を総合的に活用する必要がある。特に高齢者の特徴や支援に関連するこれまでの学習内容を十分復習しておくこと。特にこれまでの高齢者に関する授業、特に、①看護対象論Ⅰ（ライフサイクル）の成人・老人部分、②看護対象論Ⅱ（疾病の回復過程）の成人・老人部分、③在宅看護援助論の認知症高齢者部分、④治療看護技術論Ⅰ（成人・老人）については確実に身につけて実習に臨むようにすること。<u>特に、治療看護技術論Ⅰ（成人・老人）の老人部分の講義で取り扱った、高齢者の全体像把握用紙、自我発達の開示パターン、看護計画（様式3-1および3-2）の各記録用紙を用いて、対象者理解とアセスメント、看護計画の立案を、実際に行っていくことになる。授業資料を見直し、不明な部分は教員に確認する等して、記録用紙の書き方は「確実に分かる・出来る」レベルにまで到達してから実習に臨むこと。実習では、それらは既に行ったものであり、出来るものとしてはじめる。</u></p> <p>【事後学習】受け持ち高齢者の看護を通して、興味をもった学習課題について文献などを用いて探究的発展的な自己学習を行うこと。また、実習における今後の自己の課題を明らかにすること。</p>
-----------------------	--

実習内容と方法	
<p>1. 実習場所</p> <p>介護老人保健施設（老健）、あるいは、サービス付き高齢者向け住宅（サ高住）</p>	
<p>2. 実習方法</p> <p>介護老人保健施設入所中、あるいは、サービス付き高齢者向け住宅利用中の高齢者を受け持ち、看護計画を立て、看護にあたる。また、ケアの実践を通して、他職種の役割・機能、ならびに多職種連携について理解を深める。</p>	
<p>3. 実習期間</p> <p>平成 29 年 9 月 25 日（月）～平成 30 年 2 月 2 日（金）のうちの 2 週間／グループ</p>	
<p>4. 実習スケジュール（例）</p> <p>○1 週目</p> <p>月：オリエンテーション・演習（学内実習） 火～金：臨地実習（介護老人保健施設あるいはサービス付き高齢者向け住宅）</p> <p>○2 週目</p> <p>月～木：臨地実習（介護老人保健施設あるいはサービス付き高齢者向け住宅） 金：実習の統合まとめ・個人面接（学内実習）</p> <p>※祝日が入る場合はスケジュールを調整する予定。</p> <p>参考：平成 29 年度看護展開実習週の祝日 10/9(月):1 週目、11/3(金):1 週目、11/23(木):2 週目、1/8(月):1 週目</p>	

### 実習内容と方法

#### 5. 実習内容

実習初日は、高齢者の生きてきた時代背景・歴史・生活様式・文化風俗に関する GW、ならびに、治療の場と生活の場における高齢者への看護についての GW を行い、質疑応答や討議を投じて高齢者および高齢者への看護について理解を深める。

実習 2 日目を以降の臨地においては、受け持ち高齢者の情報収集、アセスメント、看護計画立案、看護実践の展開と評価に関して、臨地の実習指導者および教員の指導を受けつつ、受け持ち高齢者の看護援助を展開していく。また、実習 2 週目には、臨地の実習指導者および教員をまじえてカンファレンスを行い、学びを深める。

実習最終日の統合まとめにおいては、介護老人保健施設およびサービス付き高齢者向け住宅における高齢者の特徴・特性、看護の実際と看護のあり方について、GW、質疑応答、討議を通して、場を超えた高齢者看護ならびに将来的な高齢者看護についての学びを得る。

#### 6. 実習記録

- 1) 全体像把握用紙、自我発達の開示パターン、看護計画用紙（実習 3 日目を以降毎日提出）
- 2) 日々のワークシート（毎日提出）
- 3) 実習サマリー（臨地でのケースカンファレンス当日提出。ケースカンファレンスおよび学内での統合まとめに使用）
- 4) ケーススタディ（実習終了後提出。提出期限はグループ毎に別途設定）

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
看護展開実習Ⅲ（こども）	専門科目	2単位 (45時間)	必修	3年後期	実習
	看護援助の方法				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者] 小室佳文 [担当教員] 永島美香、藤沼小智子		実習期間中随時：各担当教員研究室・各実習施設内 小室 佳文 (405号室) komuro@tokyo-med.ac.jp 永島 美香 (402号室) m-naga@tokyo-med.ac.jp 藤沼小智子 (305号室) fujinuma@tokyo-med.ac.jp			
授業のねらい	成長発達する子どもとその家族の健康生活ならびにニーズ、健康問題を理解し、個々の子どもの発達段階や健康段階に応じた基本的な看護方法を体験し習得する。また、子どもや家族に関わる看護の場を体験することで、保健、医療、福祉、教育における子どもの看護の機能を学ぶ				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連(口にチェックする)	<input checked="" type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
到達目標	1. 子どもの健康状態と発達の状況を把握できる。 2. 子どもの生活背景や家族の状況を把握できる。 3. 子どもの身体的・心理的・社会的な看護上の問題を把握し援助を実施できる。 4. 子どもの発達段階、生活歴、個性、疾病や治療を考慮した生活の援助ができる。 5. 子どもが生活するあらゆる場における看護の機能を考察できる。				
教科書	・デジタルナーシンググラフィカ（メディカ出版）				
参考図書	・系統看護学講座 小児看護学Ⅰ 小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院） ・看護学テキストシリーズ NiCE 小児看護学概論 子どもと家族に寄り添う援助 改訂第2版（南江堂） ・看護学テキストシリーズ NiCE 小児看護技術 子どもと家族の力をひきだす技 改訂第2版（南江堂）				

科目コード【3317】

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新体系看護学全書 小児看護学①小児看護学概論 小児保健 (メヂカルフレンド社)</li> <li>・新体系看護学全書 小児看護学②健康障害をもつ小児の看護 (メヂカルフレンド社)</li> </ul>
<b>評価方法</b>	<p>目標の到達度 (自己評価表参照) 80%、                  統合シミュレーション学内実習の態度・討議内容 10%                  最終レポート 10%</p>
<b>課題に対するフィードバック</b>	<p>実習中にフィードバックする。</p>
<b>事前・事後学習</b>	<p><b>【子どもの看護に関して】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年前期までの学習内容を復習して実習に臨んでください。</li> <li>・実習後は、文献を活用して実習内容を振り返り、自分の行った看護援助や観察したことを、意味づけ、考察しましょう。</li> </ul> <p><b>【自己の課題に関して】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習者として、自己の課題をもって実習に臨みましょう。</li> <li>・実習後は、次の実習でとりくむ自己の課題を明確にしましょう。</li> </ul>

<b>実習内容と方法</b>
<p><b>【実習期間】</b></p> <p>2017年9月25日(月)～2018年2月2日(金)における2週間</p> <p><b>【実習場所】</b></p> <p>東京医科大学病院、東京医科大学八王子医療センター                  社会福祉法人日本心身障害児協会島田療育センター、公益財団法人日本心臓血管研究振興会附属榊原記念病院</p> <p><b>【実習方法】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児病棟では、健康障害のある子どもを受け持ち、全体像の把握、看護計画立案・実施・評価の過程において、可能な限り子どもへの看護援助を実践する。</li> <li>2. 小児科外来では、子どもや家族とコミュニケーションをとり、可能な範囲で診察・処置に参加する。</li> <li>3. 障害児施設では、病棟・外来・デイケアに分かれ実習を行い、障害を持つ子どもの療養生活の場で可能な範囲で看護援助に参加する。</li> <li>3. 小児科外来と障害児施設では、可能ならば訪問看護に参加する。</li> <li>4. 各実習施設での学びをグループ全体で共有し、援助過程を整理・統合するためにシナリオシミュレーションを実施する。</li> </ol> <p><b>【実習スケジュール】</b></p> <p>小児病棟、小児科外来、障害児施設の病棟・外来・デイケアいずれかをローテーションし、最終日は学内で統合シミュレーションを行う。</p> <p>*実習スケジュールの詳細については、実習前オリエンテーションで提示する。</p>

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
看護展開実習Ⅳ（母性）	専門科目	2単位 (45時間)	必修	3年後期	実習
	看護援助の方法				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者] 鈴木祐子 [担当教員] 鈴木祐子・成田みゆき・藤本薫・ 田村知子・黒岩美幸		いつでも可、事前にメールでの連絡が望ましい 各研究室 鈴木（研究室 404 syuko410@tokyo-med.ac.jp） 成田（研究室 412 miyukin@tokyo-med.ac.jp） 藤本（研究室 408 fujimoto@tokyo-med.ac.jp） 田村（研究室 211 tamura@tokyo-med.ac.jp） 黒岩（研究室 415 mkuroiwa@tokyo-med.ac.jp）			
授業のねらい	ライフスタイルの多様性をふまえ、女性のライフサイクルにおける支援の実際に参加し、母性看護の役割を考察する。特に、周産期における母子とその家族を対象として、より健康な生活を目指した看護実践能力を養い、加えて母子と家族に必要な母性看護の役割を考察することを目的とする。				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連(口にチェックする)	<input checked="" type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
到達目標	1. 褥婦・新生児、妊婦およびその家族をアセスメントし、基本的な看護を実践できる。 2. 妊婦、産婦およびその家族の看護実践に参加し、基本的な看護を理解できる。 3. ハイリスク児とその家族への看護を理解できる。 4. 母性看護における健康教育や保健指導の意義を考察できる。 5. 地域で生活する女性の健康支援や子育て支援を考察できる。 6. 性や生命の尊重について考える機会とする。				
教科書	系統看護学講座 母性看護学2 母性看護学各論 医学書院 デジタルナーシング・グラフィカ 母性看護実践の基本、母性看護技術				



<p><b>参考図書</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病気が見える 10 産科 第3版 メディックメディア</li> <li>・ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第3版 医歯薬出版</li> <li>・ウエルネスからみた母性看護過程 第2版 佐世正勝ほか 医学書院</li> <li>・根拠と事故防止からみた母性看護技術 石村由利子ほか 医学書院</li> <li>・治療看護技術論Ⅱ（女性）で使用した資料、自己学習ノートなど全て</li> </ul>
<p><b>評価方法</b></p>	<p>実習目標の到達度75%、実習への取り組み20%、課題レポート5% 評価指標については、看護展開実習Ⅳ（母性）実習要項の「学生評価表」ならび「教員評価表」を参照してください。</p> <p>実習日数の4/5以上の出席をもって単位認定の評価の対象とする。</p>
<p><b>課題に対する フィードバック</b></p>	<p>提出された事前課題については内容を確認し実習開始前に返却します。実習中は適宜フィードバックします。実習終了時には個別面接を実施し振り返りをします。</p>
<p><b>事前・事後学習</b></p>	<p>事前学習：「治療診断学Ⅱ（産婦人科）」、「治療看護技術論Ⅱ（女性）」など母性看護学実習に関連する科目について十分復習しておく。 実習時に役立つよう整理し、理解した上で実習に臨む。 夏期休暇中にデジタルナースング・グラフィカのグラフィカ問題〈母性看護学該当部分〉の問題を解き理解を深める。 事後学習： 看護師国家執権問題過去問題（母性看護学）を解き理解を深める。</p>

<p>授業回数</p>	<p>項目</p>	<p>講義内容</p>	<p>担当者</p>
<p>1</p>	<p>◎実習内容の詳細については、実習要項を参照のこと。</p> <p><b>【実習期間】</b> 平成 29 年 9 月 25 日（月）～30 年 2 月 2 日（金） 2 週間</p> <p><b>【実習場所】</b> 病 院：①東京医科大学病院（産科病棟、産科外来、NICU） ②東京医科大学八王子医療センター（産科病棟、産科外来） ③武蔵野赤十字病院（NICU）</p> <p>病院外施設：①性を語る会 ②助産師訪問PAM ③たらちね助産院 ④あかり助産院 ⑤八千代助産院おとわばーす ⑥助産所ねりじょはうすLuna ⑦おやかカフェほっくる ⑧子育てママ応援塾ほっこりーの ⑨有限会社モーハウス</p>		

授業回数	項目	講義内容	担当者
		<p><b>【実習スケジュール】</b></p> <p>2週間の中でAおよびBの実習を行う。</p> <p>A. 月曜日～金曜日：産科病棟における受け持ち実習 カンファレンス（中間・最終）</p> <p>B. 月曜日～木曜日：NICU実習 産科外来実習 病院外施設における実習</p> <p>実習最終日（金曜日）：グループワーク 学内発表 個人面接 記録物提出</p> <p><b>【実習方法】</b></p> <p>1) 産科病棟</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1～2名の学生で、分娩および帝王切開術後に正常経過をたどると予測される一組の母子、または切迫早産等の妊婦を受け持ち、看護過程に基づき看護を実践する。</li> <li>・1～2名の学生で、褥婦・新生児、妊婦の健康診査および基本となる看護技術を実践する。</li> <li>・妊婦、産婦の看護実践に参加する。</li> </ul> <p>2) 産科外来</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妊婦健康診査、助産師外来、妊婦相談など妊婦に実施される健康診査や保健指導を見学する。</li> <li>・産後1か月健診で産科外来を受診される褥婦の診療や保健指導を見学する。</li> <li>・母親学級・両親学級など出産準備教育の集団指導に参加する。</li> </ul> <p>3) NICU</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハイリスク児やその家族に対する看護を見学する。</li> </ul> <p>4) 病院外施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院外施設における女性の健康支援や子育て支援を見学・参加する。</li> <li>・施設ごとに学習内容をまとめて発表し合い、学びを共有する。</li> </ul> <p><b>【留意事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習時は毎朝「健康チェックリスト」（実習要項参照）を基に健康確認を行ないません。流行性角結膜炎、口唇ヘルペス、腸炎（下痢・嘔吐）などの感染症罹患（疑い含む）の場合、実習はできません。実習前から体調を管理しましょう。</li> <li>・麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎については、抗体価が陽性であることが求め</li> </ul>	

科目コード【3318】

授業回数	項目	講義内容	担当者
		<p>られます。陰性の場合はワクチン接種を受け、その後の抗体価検査でも陰性の場合には追加接種していなければ実習はできません。自身の抗体価やワクチン接種状況を確認しておきましょう。</p>	

科目コード【3319】

科目	科目区分	単位数 (1単位当 りの時間)	必修・選 択 区 分	開講時期	授業形態
看護展開実習Ⅴ(精神)	専門科目	2単位 (45時間)	必修	3年後期	実習
	看護援助の方法				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者] 小林信 [担当教員] 上野里絵、神澤尚利		随時、教員研究室および実習場所 小林(506研究室): nkoba027@tokyo-med.ac.jp 上野(504研究室): r-ueno@tokyo-med.ac.jp			
授業のねらい	治療看護技術論Ⅲ(精神)で学んだことを基盤に、精神障がいをもつ人を全人的に理解する。また、その人の「ストレングス」や「リカバリー」をふまえ、その人らしく生きるための支援について理解を深める。これらの過程を通して、患者-看護師間の治療的援助関係について理解し、精神看護における基礎的な看護実践能力を養う。さらに、地域で生活する精神障がいをもつ人および支援の実際を理解する。				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連(□にチェックする)	<input checked="" type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
到達目標	1. 生育歴、生活歴、病歴などを統合し、現在の対象のありのままの存在を理解できる。 2. 患者-看護師関係を通して、治療的援助関係について理解できる。 3. 精神障害をもちながら地域資源を活用して生活している人の支援の実際について学び、精神障がい者にとってのリカバリーとは何かを考えられる。				
教科書	特になし				
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルナーシング・グラフィカ</li> <li>36巻 情緒発達と看護の基本 出口禎子(編集) 2015年 メディカ出版</li> <li>37巻 精神障害と看護の実践 出口禎子(編集) 2015年 メディカ出版</li> <li>・今日の治療薬 2016解説と便覧 2016年 南江堂</li> <li>・精神看護学—学生-患者のストーリーで綴る実習展開 田中美恵子(編著) 2015年 医歯薬出版</li> <li>・児童青年期精神看護学—セルフケアへの支援 宇佐美しおり、岡田俊(編著) 2012年 医歯薬出版</li> <li>・精神障害者の退院計画と地域支援 田中美恵子(編著) 2009年 医歯薬出版</li> <li>・精神看護実習ガイド(パーフェクト臨床実習ガイド—ライフステージに沿った看護技術と看護の展開) 萱間真美(編集) 2007年 照林社</li> <li>・改訂2版 精神科看護の知識と実際(臨床ナースのための Basic &amp; Standard) 村井俊哉、平澤久一、吉田佳郎(編著) 2015年 メディカ出版</li> <li>・看護師・看護学生のためのなぜ?どうして?9:精神看護(看護・栄養・医療事務・介護他医療関係者のなぜ?どうして?シリーズ) 2015年 医療情報科学研究所</li> <li>・精神科の薬がわかる本 第3版 姫井昭男 2014年 医学書院</li> <li>・行って見て聞いた 精神科病院の保護室 三宅薫 2013年 医学書院</li> </ul> その他、必要時提示します。				

科目コード【3319】

評価方法	実習内容（実習目標到達度・実習態度・実習記録・記録提出状況）90%、レポート（10%）とする。
課題に対するフィードバック	実習期間中、日々のカンファレンス、記録へのコメントなどを通してフィードバックをする。また、必要に応じて担当教員との個別面談を行う。
事前・事後学習	事前学習：診断治療学Ⅲ（精神科）、治療看護技術論Ⅲ（精神）および看護対象論Ⅱ、在宅看護援助論の精神看護学に関する内容を中心に復習しておくこと。 事後学習：実習後に評価表や面談、指導者のコメントなどで明らかになった個々の課題について、教科書、参考書、授業資料などを用いて復習する。

授業回数	項目	講義内容	担当者
1		<p>【実習場所】長谷川病院の精神科病棟および地域生活支援事業を行っている施設</p> <p>【対象】精神科病院に入院し療養生活を送っている人、地域で生活する精神障がいをもつ人</p> <p>【実習時間】9：00～16：00</p> <p>【実習内容】</p> <p>I．実習初日オリエンテーション</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習にあたり留意事項の確認</li> <li>2. 事前課題のプレゼンテーション</li> <li>3. 再構成の演習</li> </ol> <p>II．実習の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. リカバリーやストレングスをふまえた看護の展開（学生一人につき一人の患者を受け持つ）</li> <li>2. 精神科リハビリテーション（作業療法、SST など）への参加</li> <li>3. 地域生活支援事業を行っている施設（地域活動支援センター、就労継続支援B型など）での体験実習</li> <li>4. カンファレンスの実施</li> </ol> <p>*別途、精神看護学実習要項を配布し、実習オリエンテーション時に詳細を説明する。</p>	

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
看護展開実習Ⅵ(在宅)	専門科目	2単位 (45時間)	必修	3年後期	実習
	看護援助の方法				
<b>科目担当者</b>		<b>オフィスアワー・場所</b>			
[科目責任者]春日広美 [担当教員]岩田尚子 久長正美		春日 広美 hkasuga@tokyo-med.ac.jp 岩田 尚子 n_iwata@tokyo-med.ac.jp 久長 正美 hisanaga@tokyo-med.ac.jp 実習期間中は専用の携帯電話・携帯メールで連絡をする。番号・アドレスは実習オリエンテーションで提示する。			
<b>授業のねらい</b>	健康障害を持って在宅で療養する人とその家族の生活を理解し、安全、安楽に自身の生活をおくることを支える看護の実際を理解する。これらは訪問看護サービスの実際において、療養者と家族の生活、看護の展開方法を知ることによって学ぶ。また、他職種との連携の実際から在宅ケアシステムにおける看護の役割と専門性を学ぶ。				
<b>学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連(口にチェックする)</b>	<input checked="" type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、ケアとケアを融合した看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
<b>到達目標</b>	1) 療養者の健康障害と生活、および家族の生活への影響が理解できる。 2) 在宅で安全、安楽に療養生活をおくることを支える看護の援助を理解できる。 3) 療養者や家族をサポートするケアシステムと在宅におけるチームケアの実際が理解できる。 4) 在宅で看護を提供する上での適切な態度がとれる。				
<b>教科書</b>	ナーシンググラフィカに加えて、以下のテキストを使用する。 ・在宅看護学第5版増補版, 波川京子編, 2016, クオリティケア. ・家族看護学 理論と実践 第4版, 鈴木和子他, 2012, 日本看護協会出版会.				
<b>参考図書</b>	・根拠がわかる在宅看護技術第2版 岡崎美智子編 メジカルフレンド社 2013 ・写真でわかる訪問看護改訂第2版 押川眞喜子監修 インターメディカ 2013 ・訪問看護のフィジカルアセスメントと急変対応 日本訪問看護財団監修 中央法規 2016 ・認知症訪問看護 日本訪問看護財団監修 中央法規 2016 他、必要時提示する。				

科目コード【3320】

<p><b>評価方法</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習日数の 4/5 以上の出席をもって単位認定の評価の対象とする。</li> <li>・実習状況（合同カンファレンスでの発言、学習態度）20%</li> <li>・到達目標に基づく、実習記録類・レポートにおける学習の充実度 80%</li> </ul>
<p><b>課題に対する フィードバック</b></p>	<p>実習記録へのフィードバックは、e 自主自学内および教員ラウンドにて行う。</p>
<p><b>事前・事後学習</b></p>	<p>&lt;事前学習&gt;在宅看護論は統合分野の科目であるため、実習ではこれまでに学んだ医学、看護の知識と技術が必要である。実習前には、家族看護論、在宅看護援助論について e 自主自学内の授業資料を復習するとともに、基礎、成人、精神、小児、老年、地域看護学で学んだ知識と技術を復習して実習に臨む。</p> <p>「事前学習課題」があるので、実習開始直前になったら、e 自主自学内に提示された実習オリエンテーション資料を確認して課題について調べておくこと。</p> <p>&lt;事後学習&gt;実習後に明らかになった個々の学習課題について、テキスト、文献等で復習し、他の実習や次の学習へ発展させる。</p>

**実習内容と方法**

■実習場所：東京都内の訪問看護ステーション

■実習方法

各実習場に学生 1～2 名を配置し、看護師や理学療法士と在宅療養者宅へ同行して学習する。

■実習期間

平成 29 年 9 月 25 日（月）～平成 30 年 2 月 2 日（金）のうちの 2 週間

■実習スケジュール

1 週	内 容	2 週	内 容
月	オリエンテーション・演習（学内実習）	月	臨床実習（訪問看護）
火	臨床実習（訪問看護）	火	臨床実習（訪問看護）
水	臨床実習（訪問看護）	水	臨床実習（訪問看護）
木	臨床実習（訪問看護）	木	臨床実習（訪問看護・臨地でのカンファレンス）
金	臨床実習（訪問看護）	金	合同カンファレンス・面接（学内実習）

※実習期間中に祝日が入る場合は、実習第 1 日目の午後は臨地での実習になる。

### 実習内容と方法

#### ■実習内容

- ①実習指導者より訪問看護ステーションの運営・管理、療養者や家族に対する配慮などについて説明を受ける。
- ②一人の療養者（ケース）を中心に、様々な在宅療養者への訪問看護に同行し、療養者と家族の生活を学ぶ。
- ③当日訪問する療養者に関する情報は、あらかじめ看護記録、実習指導者・看護師から得ておく。
- ④在宅療養者への看護援助の実際に同席し、ときに指導者・看護師の指導のもと実践し、訪問看護の実際を学ぶ。
- ⑤在宅療養者への在宅ケアチームの活動を見学し、在宅ケアシステムの中での訪問看護の役割と専門性、関連職種、関連機関との連携の実際を学ぶ。

#### ■実習記録

1. 毎日提出：【訪問看護ステーション実習記録（日誌）】その日の実習で学んだことを記載する。
2. 実習終了時提出：【訪問看護ステーション実習記録（ケース記録）】  
【レポート】実習の到達目標に照らした在宅看護論実習での学び。

※記録はe 自主自学内で提出し、フィードバックもe 自主自学内で閲覧する。



科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
災害看護論演習	専門科目	1単位 (30時間)	必修	3年後期	演習
	グローバルヘルス				
<b>科目担当者</b>		<b>オフィスアワー・場所</b>			
[科目責任者] 山崎 達枝 [担当教員] 山崎 達枝		時間：授業終了後から 30 分間 場所：非常勤講師控室			
<b>授業のねらい</b>	災害発生時の災害対応について災害看護の視点から災害急性期、中長期の看護についてシミュレーション演習を通し具体的に学ぶ。災害急性期の看護では看護活動に必要な基本的判断力、救護技術、チーム連携の取り方を習得する。災害中長期の看護では、災害中長期である被災者に起こりやすい健康や生活問題、特に時期的変化をふまえた心のケアの必要性と具体的な方法を理解する。				
<b>学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連 (□にチェックする)</b>	<input type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
<b>到達目標</b>	1. 看護の知識と技術を活用し、基本的な支援活動が実践できる。 2. シミュレーション学習を通して、災害時の看護師の役割が理解でき、卒業後の被災地での支援活動ができる。 3. 支援活動時に多職種との連携・協働できる。				
<b>教科書</b>	災害現場でのトリアージと応急処置 山崎達枝 2009年 日本看護協会出版会				
<b>参考図書</b>	必要時に紹介する。				
<b>評価方法</b>	実技試験：50% 授業態度：レポートおよびグループワーク参加態度等 50%				
<b>課題に対する フィードバック</b>	演習での振り返りの時間を設ける。				
<b>事前・事後学習</b>	事前学習：前回は行った演習を復習してくる。特に三角巾を使った固定法などは、スムーズに行えるように技術訓練を行うこと。				

科目コード【3502】

	各科の疾患と病態生理・特徴的症状などしっかり復習してくること。 テキスト特にDVDを見てくること。
--	--

授業回数	項目	講義内容	担当者
1	机上シミュレーション	トリアージタグへの記載と実施	山崎 達枝
2	映像シミュレーション	第1次・第2次トリアージ	山崎 達枝
3A・B	演習：トリアージ	外傷メイク後模擬患者によるトリアージ	山崎 達枝
4A・B	机上シミュレーション:避難所	避難所の立ち上げ 被災者の安全を守る避難所運営	山崎 達枝
5	講義：福祉避難所 演習:避難所	福祉避難所、災害時要配慮者について 避難所模擬体験	山崎 達枝
6	机上シミュレーション:避難所	避難所の立ち上げ 被災者の安全を守る避難所運営	山崎 達枝
7A・B	机上シミュレーション エマルゴトレーニングシステムを使用	救護所から医療施設への受け入れ体制 活用したスキルとその効果、改善点、感想をレポート、次回授業に持参する。	山崎 達枝
8A・B	机上シミュレーション エマルゴトレーニングシステムを使用	救護所から医療施設への受け入れ体制 活用したスキルとその効果、改善点、感想をレポート、次回授業に持参する。	山崎 達枝
9A・B	演習：応急処置	三角布を利用した被覆応急処置	山崎 達枝
10A・B	演習：応急処置	三角布を利用した被覆応急処置 担架による搬送	山崎 達枝
11	演習：ロールプレイング	事例から学ぶ、被災者への関わり	山崎 達枝
12	演習：ロールプレイング	事例から学ぶ、救援者への関わり	山崎 達枝
13	DVD鑑賞	「遺体」	山崎 達枝
14	演習：ロールプレイ	事例から学ぶ、遺族への関わり	山崎 達枝
15	災害看護統合演習 (HUG)	避難所の管理運営（災害医療の体系に基づいたシミュレーション）実施後は振り返りを行い、看護職の役割を再確認する。	山崎 達枝
—	定期試験		

科目コード【3107】

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
コーチングの基礎	専門科目	1単位 (30時間)	必修	3年前期	演習
	看護の基礎				
<b>科目担当者</b>		<b>オフィスアワー・場所</b>			
[科目責任者] 竹内千恵子 [担当教員] 竹内千恵子 藤本薫 小野田舞		講義終了後 講師控え室			
<b>授業のねらい</b>	看護の対象や協働する看護職、他職種との人間関係の構築・調整、看護専門職のキャリア開発・人材の育成等におけるコーチングの有効性について理解し、コミュニケーションスキルの一つとして体系化されたコーチングの構造とスキルの基礎を、体験を通して習得する。また、領域別実習における経験の振り返りにより、コーチングの学びの定着を図る。				
<b>学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連 (□にチェックする)</b>	<input type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
<b>到達目標</b>	1 コーチングが、看護の対象や看護職間、協働する他職種との人間関係の構築、看護専門職のキャリア開発および看護職の人材育成における有効性について自身の言葉で説明できる。 2 基本的なコーチングスキルを体験的に学び、実習等で積極的に活用できる。 3 学んだコーチングスキルを活用して、コーチングの構造を念頭に置きながら、コーチングセッションが実践できる。				
<b>教科書</b>	伊藤守、コーチングの教科書、アスペクト				
<b>参考図書</b>	スティーヴァン・C・ランディン他、相原真理子訳、フィッシュ、早川書房 L. ウィットワース他、CTI ジャパン訳 コーチング・バイブル 東洋経済新報社 伊藤守、コーチングマネジメント、ディスカヴァー 鈴木義幸 コーチングスキル ディスカヴァートウエンティワン 伊藤守、鈴木義幸 図解コーチング流タイプ分けを知ってアプローチするとうまくいく ディスカヴァー				

科目コード【3107】

<b>評価方法</b>	試験又はレポート 70% 毎回の小レポート及びグループワークにおける貢献 30%
<b>課題に対する フィードバック</b>	課題は、次回の授業時にフィードバックする
<b>事前・事後学習</b>	事前学習：1年次に学習したコミュニケーション論を復習してから受講すること 必要時事前課題を提示する 事後学習：毎回課題が出されるので、必ず課題に取り組んでその成果を全体で共有する

授業回数	項目	講義内容	担当者
1	コーチングの基礎知識	本時の目標提示 コーチングの概要とコーチングスキル	竹内千恵子
2.3	コーチング・エクササイズ 1-1 コーチングエクササイズ 1-2	アイスブレイク 本時の目標提示 課題の取り組みによる学びをグループで共有する コーチング学習におけるエクササイズの意味と注意 エクササイズの体験Ⅰとその意味づけ コーチングの構造 コーチングスキルの体験Ⅱとその意味づけ 体験の共有 課題の提示	竹内千恵子 藤本薫 小野田舞 その他
4.5	コーチングエクササイズ 2	アイスブレイク 本時の目標提示 課題の取り組みによる学びをグループで共有する コーチングスキル「ペーシング」「積極的傾聴」のエクササイズを通して、コーチングスキルを体験的に習得する 体験の共有 課題の提示	竹内千恵子 藤本薫 小野田舞 その他
6.7	コーチングエクササイズ 3-1	アイスブレイク 本時の目標提示 課題の取り組みによる学びをグループで共有する	

科目コード【3107】

	<p>コーチングエクササイズ 3-2</p>	<p>コーチングスキル「承認」「質問」「チャンクダウン・チャンクアップ」のエクササイズを通して体験的に習得する</p> <p>コーチングの構造で重要なセットアップを体験する</p> <p>コーチングの構造を意識したコーチングを体験する</p> <p>エクササイズ</p> <p>様々なコミュニケーション場面（对患者、看護師、指導者、教員、学生）を思い起こして安心安全な場を作り、質問、チャンクダウン・アップ、傾聴、ペーシングを駆使して、気持ちよく話してもらう。</p> <p>体験の共有</p> <p>課題の提示</p>	<p>竹内千恵子 藤本薫 小野田舞 その他</p>
<p>8.9</p>	<p>コーチングエクササイズ 4-1</p> <p>コーチングエクササイズ 4-2</p>	<p>アイスブレイク</p> <p>前期の振り返り</p> <p>本時の目標提示</p> <p>課題の取り組みによる学びをグループで共有する</p> <p>アイスブレイク</p> <p>課題の振り返り</p> <p>エクササイズの意義と注意の再確認</p> <p>実習で体験した様々なコミュニケーション場面のシェア</p> <p>コミュニケーションのタイプについて説明できる</p> <p>自身のコミュニケーションタイプを説明できる</p> <p>コミュニケーションタイプを活かした様々な人へのアプローチを体験する</p> <p>コミュニケーションのタイプについて</p> <p>コミュニケーションのタイプを知る</p> <p>コミュニケーションスタイルの特徴と様々な人へのアプローチ</p>	<p>竹内千恵子 藤本薫 小野田舞 その他</p>

科目コード【3107】

		<p>体験の共有 課題の提示</p>	
10.11	コーチングエクササイズ 5	<p>アイスブレイク 本時の目標提示 課題の取り組みによる学びをグループで共有する     コーチングデモンストレーションの見学     見学で気づいたことを、自身のコーチング実践に活用する     「質問」と「承認」を中心に1対1のコーチングを実践する 体験の共有 課題の提示</p>	<p>竹内千恵子 藤本薫 小野田舞 その他</p>
12.13	コーチングエクササイズ 6	<p>アイスブレイク 本時の目標提示 課題の取り組みによる学びをグループで共有する     コーチングの実践前回の課題「質問」と「承認」に「傾聴」「ペーシング」加え、10分間のセッションを体験する。 体験の共有 課題の提示</p>	<p>竹内千恵子 藤本薫 小野田舞 その他</p>
14.15	コーチングエクササイズ 7	<p>アイスブレイク 本時の目標提示 課題の取り組みによる学びをグループで共有する     コーチングスキルを活用し、コーチングの構造を意識したコーチングセッションを体験する     リレーコーチングを体験する エクササイズ 1対1コーチング     コーチ役は、セッションの中で自身の取り組む課題を宣言してコーチングを行う     例:「セッションでは、コーチングの構造に沿って、傾聴・フィードバックを意識する」 等・・・ 全体共有</p>	<p>竹内千恵子 藤本薫 小野田舞 その他</p>

科目コード【3107】

		これまでの、コーチングの学びを通しての獲得したことを確認し、今後の課題を明確にする	
—	定期試験		